

3. 専 門 分 野

授 業 科 目		単 位	時 間
基礎看護学	看護学概論	1	30
	共通基本技術Ⅰ (技術の概念・人間関係成立の技術)	1	15
	共通基本技術Ⅱ (環境・バイタルサイン・感染予防)	1	30
	共通基本技術Ⅲ (看護過程)	1	30
	日常生活援助技術Ⅰ (運動・休息)	1	30
	日常生活援助技術Ⅱ (清潔・衣)	1	30
	日常生活援助技術Ⅲ (食・排泄)	1	30
	診療に伴う技術Ⅰ (診療の補助技術)	1	30
	診療に伴う技術Ⅱ (治療時の看護)	1	30
	臨床看護総論	1	30
	フィジカルアセスメント	1	30
	小 計	11	315
地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論Ⅰ (地域と暮らし)	1	15
	地域・在宅看護概論Ⅱ (健康と暮らしを支える看護)	1	30
	地域・在宅看護概論Ⅲ (地域での療養を支える看護)	1	15
	地域・在宅看護援助論Ⅰ (健康の保持増進・疾病の予防に関わる看護)	1	15
	地域・在宅看護援助論Ⅱ (在宅で療養する人と家族の看護)	1	30
	地域・在宅看護援助論Ⅲ (在宅療養を支える援助技術)	1	30
	小 計	6	135

授 業 科 目		単 位	時 間
成人看護学	成人看護学概論	1	30
	成人看護学援助論Ⅰ（急性期にある対象の看護）	1	30
	成人看護学援助論Ⅱ（回復期にある対象の看護）	1	30
	成人看護学援助論Ⅲ（慢性期にある対象の看護）	1	30
	成人看護学援助論Ⅳ（終末期にある対象の看護）	1	15
	成人看護学援助論Ⅴ（がん治療を受ける対象の看護）	1	15
	小 計	6	150
老年看護学	高齢者看護学概論	1	15
	高齢者看護学援助論Ⅰ（健康支援と日常生活援助）	1	30
	高齢者看護学援助論Ⅱ（認知症と終末期の看護）	1	30
	高齢者看護学援助論Ⅲ（検査・治療に伴う看護）	1	30
	小 計	4	105
小児看護学	小児看護学概論Ⅰ（小児看護の役割）	1	15
	小児看護学概論Ⅱ（子どもの成長と発達）	1	30
	小児看護学援助論Ⅰ （疾患・障害のある子どもの看護）	1	30
	小児看護学援助論Ⅱ （健康の段階・発達段階に応じた看護）	1	30
	小 計	4	105
母性看護学	ウィメンズヘルス看護概論Ⅰ（女性の健康と看護）	1	15
	ウィメンズヘルス看護概論Ⅱ （女性のライフサイクルと看護）	1	30
	ウィメンズヘルス看護援助論Ⅰ （妊娠期・分娩期の看護）	1	30
	ウィメンズヘルス看護援助論Ⅱ （産褥期・新生児期の看護）	1	30
	小 計	4	105
精神看護学	精神看護学概論Ⅰ（精神看護の概念と健康支援）	1	30
	精神看護学概論Ⅱ（精神保健福祉活動の動向）	1	15
	精神看護学援助論Ⅰ（疾患の理解と看護の特徴）	1	30
	精神看護学援助論Ⅱ（疾病の経過に応じた看護）	1	30
	小 計	4	105
看護の統合 と実践	総合看護	1	30
	看護医療安全	1	30
	災害看護	1	30
	臨床看護実践	1	15
	小 計	4	105

授 業 科 目		単 位	時 間
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ（看護を知る実習）	1	45
	基礎看護学実習Ⅱ （入院生活をおくる対象の理解と日常生活援助）	2	90
	基礎看護学実習Ⅲ（看護の展開）	2	90
	地域・在宅看護論実習Ⅰ （地域で生活する人々の健康支援）	2	60
	地域・在宅看護論実習Ⅱ （地域で生活・療養する人と家族の看護）	2	90
	成人・高齢者看護学実習Ⅰ（成人期・老年期の特徴 と健康障害をふまえた看護）	2	90
	成人・高齢者看護学実習Ⅱ （状況の変化に合わせた看護）	2	90
	小児看護学実習	2	90
	ウィメンズヘルス看護実習	2	90
	精神看護学実習	2	90
	統合実習Ⅰ（臨床判断能力）	2	90
	統合実習Ⅱ（看護の統合）	2	90
	小 計	23	1005
小 計	66	2130	

分野	専門分野	授業科目	看護学概論	担当 講師	
開始 年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的	看護の基盤となる概念を理解し、看護職者としての責任と役割について学ぶ。				
授業のキーワード	人間 健康 看護 看護理論 看護史 専門職 チームアプローチ				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 看護とは何かを理解できる。	(1) 看護の概念	①看護とは ②看護の定義 ③看護の役割と機能 ④看護実践に求められる倫理	講義	
	2. 近代看護の歴史が理解できる。	(1) 職業としての看護の歴史	①職業としての看護のはじまり ②職業としての看護の確立 ③職業としての看護の充実 ④職業としての看護の新たな展開	講義	
	3. 看護の対象としての人間が理解できる。	(1) 統合体としての人間	①生物体・心理社会的存在としての人間 ②ライフコースと人間 ③人間の欲求と行動	講義	
		(2) 環境と人間	①環境とは ②人に影響を及ぼす環境要因 ③個人・家族・コミュニティ・地域社会	講義	
	4. 健康について理解できる。	(1) 健康の概念	①健康とは ②健康の定義 ・WHOの定義 ・ヘルスプロモーション ・障害の定義 ③人間の健康に影響する要因	講義	
		(2) 健康に関する統計	①人々の生活と健康を示す統計 ・出生から死亡に関する統計	講義	
	5. 専門職としての看護職者について理解できる。	(1) 専門職としての看護	①専門職とは ②看護の専門職化 ・法的な規定	講義	
		(2) 看護職の養成制度	①看護職の養成制度と就業状況 ②看護基礎教育 ③継続教育 ・専門看護師 ・認定看護師 ・認定看護管理者 ・特定行為にかかる看護師の研修制度 ④看護職者の養成制度の課題	講義	

	<p>6. 看護におけるチームアプローチが理解できる。</p> <p>7. 看護実践のための理論が理解できる。</p>	<p>(1) チームアプローチ</p> <p>(2) チームカンファレンス</p> <p>(1) 看護理論</p> <p>(2) 理論家による看護のとらえ方</p>	<p>①看護における連携・協働 ②チームアプローチとは ③多職種によるチームアプローチ</p> <p>①多職種によるチームカンファレンス</p> <p>①看護理論とは ②理論家の業績の知識構造レベル</p> <p>①フローレンス・ナイチンゲール ②ヴァージニア・ヘンダーソン ③アイダ・ジーン・オーランド ④アーネスティン・ウィーデンバッグ ⑤ジーン・ワトソン ⑥ドロセア・オレム ⑦ジョイス・トラベルビー ⑧カリスタ・ロイ ⑨パトリシア・ベナー ⑩ヒルデガード・ペプロウ</p>	<p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義 演習</p>
テキスト	<p>「系統看護学講座 基礎看護学〔1〕看護学概論」 医学書院 「看護覚え書」 現代社</p>			
成績評価の方法	<p>筆記試験100%</p>			

分野	専門分野	授業科目	共通基本技術 I (技術の概念・人間関係成立の技術)	担当 講師	
開始 年次	1年 前期	単位数 時間数	1 単位 15 時間	実務 経験	
授業の目的		1. 看護技術の概念を学ぶ。 2. 人間関係成立のための技法を学ぶ。			
授業のキーワード		看護技術 リフレクション クリティカルシンキング 看護記録 個人情報 コミュニケーション アサーション プロセスレコード			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 看護技術の概念と実践に必要な要素が理解できる。	(1) 技術 (2) 看護技術	①技術の定義 ②技術の本質 ①看護技術の定義 ②看護技術の特徴 ③看護技術の原則 安全性・安楽性・自立性・経済性 ④看護技術の範囲	講義 講義	
	2. 記録の目的と管理が理解できる。	(3) 看護技術の実践に必要な要素 (1) 診療情報と看護記録	①リフレクション ②クリティカルシンキング ①診療情報とは ②看護記録とは ・看護記録の法的位置づけ ③看護記録の目的と意義 ④看護記録の構成 ・基礎情報 (プロフィールを含む) ・看護計画 ・経過記録 (フローシートを含む) ・看護サマリー	講義 演習 講義	
	3. 看護における人間関係の重要性を理解し、人間関係成立のための技法が習得できる。	(2) 診療情報および記録の取り扱い (1) 看護における人間関係 (2) コミュニケーション	①記録における個人情報 ・個人情報と要配慮個人情報 ②記録の媒体 ③記録の留意事項と管理 ・記録の開示 ④看護学生の臨地実習における情報と記録の管理 ①人間関係と看護 ②相互信頼関係の構築 ①コミュニケーションの基本概念 ②コミュニケーションの基本構造 ③コミュニケーションの種類と概要 ・言語的、非言語的コミュニケーション ・コミュニケーションの技法・アサーション ④コミュニケーションに影響する因子 ⑤コミュニケーション過程の分析と活用 ・ロールプレイを用いる方法 ・プロセスレコードを用いる方法 ⑥チームにおけるコミュニケーション	講義 講義 演習 講義	
テキスト	「系統看護学講座 基礎看護学〔2〕基礎看護技術 I」 医学書院 「系統看護学講座 基礎看護学〔1〕看護学概論」 医学書院				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	専門分野	授業科目	共通基本技術Ⅱ (環境・バイタルサイン・感染予防)	担当 講師	
開始 年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的		生活環境の調整、バイタルサイン測定、感染予防に関する看護技術について学ぶ。			
授業のキーワード		環境 バイタルサイン 感染予防 標準予防策			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 生活環境を調整することの重要性を理解し、その方法が習得できる。	(1)療養生活の環境	①環境とは ②環境の諸要素 ③療養生活と環境 ④望ましい環境条件 温度・湿度 光 音 色彩 におい 空気の清浄性 ⑤人的環境	講義	
		(2)入院生活における環境	①病室・病床	講義	
		(3)入院生活の場における環境整備	①環境整備の目的 ②環境整備における看護師の役割 ③環境整備の視点 ④病床環境の整備 ＜環境整備＞ 《ベッドメイキング》	講義 演習 演習 講義	
	2. バイタルサインの測定技術が習得できる。	(1)バイタルサインの測定	①バイタルサインとは ②体温測定 ③脈拍測定 ④呼吸測定 ⑤経皮的動脈血酸素飽和度の測定 ⑥血圧測定 (アネロイド血圧計・電子血圧計) 《バイタルサイン測定》	演習 講義	
	3. 感染予防の技術が習得できる。	(1)医療関連感染	①感染・感染症とは ②医療関連感染とは ③感染の成立と経路	講義	
		(2)感染予防	①感染予防の目的 ②感染予防の方法 ・標準予防策 (スタンダード・プリコーション) ③感染経路別予防策 ④洗浄・消毒・滅菌 ・消毒液の希釈法 ⑤感染性廃棄物の取り扱い ⑥針刺し防止策	講義	
		(3)感染予防の実際	①手指衛生 ②防護用具の着脱 ③無菌操作 ・滅菌物の取り扱い 《衛生的な手洗い・滅菌物の取り扱い 滅菌手袋の着脱・防護用具の着脱》	講義 演習	
テキスト	「系統看護学講座 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ」 医学書院 「系統看護学講座 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ」 医学書院 「ビジュアル臨床看護技術ガイド」 照林社				
成績評価の方法	技術試験30% 筆記試験70%				

分野	専門分野	授業科目	共通基本技術Ⅲ (看護過程)	担当講師	
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的	看護を展開する思考の基礎について学ぶ。				
授業のキーワード	看護過程 アセスメント ゴードンの機能的健康パターン NANDA-I看護診断				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 看護過程が理解できる。	(1) 看護過程とは	①看護過程の定義 ②看護過程の構成要素 ③看護過程の意義 ④看護過程と記録様式 ⑤看護過程を展開するために必要な能力	講義	
		(2) アセスメント (情報収集)	①情報収集とは ・情報源 ・情報収集の手段 ・情報収集の時期 ②情報収集における倫理的配慮 ③情報の分類 看護プロフィール・データベース ④看護問題の種類 ・実在型 ・リスク型 ・ヘルスプロモーション型 ⑤共同問題 ⑥看護問題と共同問題の違い ⑦NANDA-I看護診断 ・看護診断を活用する意義 ・看護診断の基礎知識 ⑧ゴードンの機能的健康パターンをふまえた情報収集とその内容 ⑨情報収集 (看護プロフィール・データベース)	講義	
		(3) アセスメント (情報分析)	①看護診断・看護援助を明らかにする過程 ②共同問題を明らかにする過程 ③対象者の全体像 ④アセスメント (情報分析の実際)	演習 講義	
		(4) 問題の明確化	①看護問題の明確化 ・照合 ②共同問題の明確化 ③優先順位の決定	演習 講義	
		(5) 計画	①計画とは ②目標の設定 ③計画の立案 ④計画 (計画立案の実際)	講義	
		(6) 実施と評価	①実施とは ②評価とは ・日々の評価 ・評価日の評価	演習 講義	
テキスト	「系統看護学講座 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ」 医学書院 「NANDA-I看護診断 定義と分類 2021-2023」 医学書院 「臨床検査データブック 2022-2023」 医学書院 「治療薬マニュアル 2023」 医学書院				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	専門分野	授業科目	日常生活援助技術Ⅰ (運動・休息)	担当講師	
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的		運動と休息に関する看護技術について学ぶ。			
授業のキーワード		ボディメカニクス 体位 移動 移乗 移送 活動 運動 運動機能 休息 睡眠 リラクゼーション			
時間	目 標	主 題	内 容	指導方法	
	1. 看護におけるボディメカニクスについて理解できる。	(1) ボディメカニクス	①ボディメカニクスとは ②看護におけるボディメカニクスの意義 ③ボディメカニクスの原則	講義	
	2. 安楽な体位・体位変換・移動・移乗・移送に関する技術を習得できる。	(1) 安楽な体位 (2) 体位変換の援助 (3) 移動・移乗・移送の援助 (4) 安楽な体位・体位変換・移動・移乗・移送の援助の実際	①体位の種類・特徴 ②体位による影響 ③安楽な体位の保持 ①体位変換とは ②体位変換の目的・方法・留意点 ①移動・移乗・移送とは ②歩行・移乗・移送の援助における目的・方法・留意点 《安楽な体位の保持 体位変換》 《車いす・ストレッチャーへの移乗》 《車いす・ストレッチャーの移送》 《歩行介助》	講義 講義 講義 演習	
	3. 活動・運動について理解することができる。	(1) 活動 (2) 運動	①活動とは ②日常生活動作 (ADL) と手段的日常生活動作 (IADL) ③活動の意義 ①運動とは ②運動機能の観察点 a) 動作 b) 姿勢 c) 筋系 d) 骨格系 e) 関節可動域 <筋力の測定・関節可動域の測定>	講義 講義 演習	
	4. 休息・睡眠について理解することができる。	(1) 休息・睡眠 (2) 休息・睡眠に関する援助 (3) リラクゼーションを促す援助	①休息・睡眠とは ②休息・睡眠の意義 ③休息・睡眠に影響する要因 ①休息・睡眠における看護師の役割 ②休息・睡眠に関する観察点 ③休息・睡眠に関する援助 ①リラクゼーションとは ②リラクゼーションを促す援助 筋弛緩法 自律訓練法 タッチング 罨法 指圧 マッサージ 呼吸法 アロマセラピー 音楽療法	講義 講義 講義	
テキスト		「系統看護学講座 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ」 医学書院 「ビジュアル臨床看護技術ガイド」 照林社			
成績評価の方法		筆記試験 100%			

分野	専門分野	授業科目	日常生活援助技術Ⅱ (清潔・衣)	担当 講師	
開始 年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的		清潔と衣生活に関する看護技術について学ぶ。			
授業のキーワード		清潔 衣生活			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 日常生活における清潔行動を理解し、清潔に関する技術が習得できる。	(1) 日常生活における身体の清潔とは	①日常生活における身体の清潔行動 入浴・整容 ②身体の清潔（入浴・整容）の意義 ③身体の清潔（入浴・整容）に影響する要因	講義	
		(2) 清潔の援助	①清潔（入浴・整容）の援助における看護師の役割 ②清潔の援助に関する観察点 ・援助の必要性を判断するための観察点 ・援助内容・援助方法を決定するための観察点 ・援助の効果・方法の妥当性を判断するための観察点 ③入浴の援助における目的・方法・留意点 入浴・シャワー浴・全身清拭・洗髪・手浴・足浴・陰部洗浄 ④整容の援助における目的・方法・留意点 整髪・髭剃り・洗面・爪切り・耳のケア・鼻のケア・口腔ケア	講義	
		(3) 清潔の援助の実際	《全身清拭》 《洗髪》 《手浴・足浴・陰部洗浄》 《口腔ケア》	演習	
	2. 日常における衣生活を理解し、衣生活に関する技術が習得できる。	(1) 衣生活とは	①衣服を用いることの意義 ②衣生活に影響する要因	講義	
		(2) 衣生活の援助	①衣生活への援助における看護師の役割 ②療養生活における衣類の選択 ③衣生活の援助に関する観察点 ・援助の必要性を判断するための観察点 ・援助内容・援助方法を決定するための観察点 ・援助の効果・方法の妥当性を判断するための観察点 ④衣生活の援助における目的・方法・留意点	講義	
		(3) 衣生活の援助の実際	《寝衣交換》 《寝衣・リネン交換》	演習	
テキスト	「系統看護学講座 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ」 医学書院 「ビジュアル臨床看護技術ガイド」 照林社				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	専門分野	授業科目	日常生活援助技術Ⅲ (食・排泄)	担当講師	
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的		食生活と排泄に関する看護技術について学ぶ。			
授業のキーワード		食生活 排泄			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 日常生活における食を理解し、食生活に関する技術が習得できる。	(1) 日常生活における食とは	①日常生活における食事内容 食事行動 ②日常生活における食の意義 ③日常生活における食に影響する要因	講義	
		(2) 食生活の援助	①食生活の援助における看護師の役割 ②栄養サポートチーム ③食生活に関する観察点 ・援助の必要性を判断するための観察点 ・援助の内容・援助方法を決定するための観察点 ・援助の効果・援助の妥当性を判断するための観察点 ④食事内容における援助 ⑤食事行動における援助の目的・方法・留意点 <食事介助>	講義	演習
	2. 日常生活における排泄を理解し、排泄に関する技術が習得できる。	(1) 日常生活における排泄とは	①日常生活における排泄 ②日常生活における排泄の意義 ③日常生活における排泄に影響する要因	講義	
		(2) 排泄の援助	①排泄の援助における看護師の役割 ②排泄に関する観察点 ・援助の必要性を判断するための観察点 ・援助の内容・援助方法を決定するための観察点 ・援助の効果・援助の妥当性を判断するための観察点 ③排泄行動の援助における目的・方法・留意点 ・トイレにおける排泄の援助 ・ポータブルトイレでの排泄の援助 ・床上での排泄の援助 ④自然排泄を促す援助 ・自然排便を促す援助 ・自然排尿を促す援助 ⑤排泄障害の援助における目的・方法・留意点 ・浣腸 ・導尿 (一時的・持続的導尿)	講義	

		(3)排泄の援助の実際	≪ポータブルトイレでの援助≫ ≪便器の使い方・尿器の使い方≫ ≪グリセリン浣腸≫ ≪導尿≫ <膀胱留置カテーテル管理>	演習
テキスト	「系統看護学講座 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ」 医学書院 「ビジュアル臨床看護技術ガイド」 照林社			
成績評価の方法	筆記試験100%			

分野	専門分野	授業科目	診療に伴う技術 I (診療の補助技術)	担当 講師	
開始 年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実 務 経 験	
授業の目的		診察・検査・与薬に関する看護技術について学ぶ。			
授業のキーワード		診察 診察 検査 与薬 輸血 身体計測 包帯法			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 診療・診察における看護の役割が理解できる。	(1) 診療における看護の役割 (2) 診察における看護師の役割	①診療とは ②診療のプロセス ③診療における看護師の役割 ①診察とは ②診察の目的 ③診察方法 ④診察における看護師の役割 ・安全・安楽に診察を受けるための援助 ・円滑に診察を進めるための援助	講義 講義	
	2. 診療に関連した技術を理解することができる。	(1) 身体計測 (2) 包帯法	①身体計測の目的 ②身体各部の計測 身長・体重・胸囲・腹囲 ①包帯とは ②包帯の目的 ③包帯使用時の原則と注意点 ④包帯の種類と巻き方 ＜包帯法＞	講義 講義 演習	
	3. 検査における看護師の役割を理解し、採血の技術が習得できる。	(1) 検査とは (2) 検査における看護師の役割 (3) 静脈血採血の実際	①検査とは ②検査の目的 ①生体検査時の看護 X線・CT・MRI・超音波検査 ②検体検査時の看護 検体の取り扱い：血液・尿・便・喀痰 ③検査における看護師の役割 ①静脈血採血の部位 ②静脈血採血の方法 《真空管採血》 《注射器採血》	講義 講義 講義 演習	
	4. 薬物療法における看護師の役割を理解し、与薬に関する技術を習得できる。	(1) 薬物療法における看護師の役割 (2) 与薬方法と看護	①薬物療法とは ②薬物の種類と吸収・排泄の機序 ③薬物療法における看護師の役割 正しい与薬 観察 薬物管理（毒薬・劇薬・麻薬） ④与薬に伴う事故と安全対策 ①経口与薬法 ②直腸内与薬法（坐薬） ③経皮的与薬法 ④点眼・点鼻・点耳法 ⑤吸入法 ⑥注射法 （皮内注射・皮下注射・筋肉注射・ 静脈内注射・点滴静脈内注射・中心静脈 カテーテル法）	講義 講義	

	5. 輸血療法における看護師の役割を理解できる。	(3) 与薬の実際 (1) 輸血とは (2) 輸血時の看護	≪皮下注射・筋肉注射≫ ≪静脈内注射・点滴静脈内注射≫ <直腸内与薬> ①輸血とは ②輸血の目的 ③血液製剤の種類と保管 ④輸血の副作用 ⑤輸血前に必要な検査 ①輸血前の看護 ②輸血中の看護 ③輸血後の看護 ④輸血に伴う事故と安全対策	演習 講義 講義
テキスト	「系統看護学講座 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ」 医学書院 「系統看護学講座 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ」 医学書院 「系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学」 医学書院 「ビジュアル臨床看護技術ガイド」 照林社			
成績評価の方法	筆記試験 100%			

分野	専門分野	授業科目	診療に伴う技術Ⅱ (治療時の看護)	担当 講師	
開始年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的	手術療法を受ける対象の看護と医療機器の取り扱いについて学ぶ。				
授業のキーワード	集中治療 手術療法 麻酔 ME機器				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 手術療法を受ける対象の看護が理解できる。	(1) 手術療法	①手術療法とは ②手術療法の変遷	講義	
		(2) 麻酔	①麻酔とは ②麻酔の種類と作用 ・全身麻酔 (吸入麻酔・静脈麻酔) ・局所麻酔 (硬膜外麻酔・腰椎麻酔・伝達麻酔)	講義	
		(3) 手術・麻酔が人間に及ぼす影響	①侵襲とは ②手術・麻酔が対象に及ぼす影響	講義	
		(4) 手術前の看護	①術前看護の目標 ②術後に順調な回復過程をたどるための準備 ・身体の準備 ・精神的準備 ・術後環境の準備	講義	
		(5) 手術中の看護	①手術室の構造と設備 ②術中看護の目標 ③手術室入室から退室まで ④手術室看護師の役割	講義	
		(6) 手術後の看護	①術後看護の目標 ②術後の身体的・精神的変化に基づいた看護 ・術直後から麻酔覚醒まで ・麻酔覚醒から創傷治癒修復まで ③全身麻酔下で手術療法をうける対象の術後の標準看護計画 ④社会復帰への援助	講義	
	2. 集中治療を受ける対象の看護が理解できる。	(1) 集中治療とは	①集中治療とは ②集中治療を受ける環境	講義	
		(2) 集中治療を受ける対象への看護	①集中治療を受ける対象の特徴 ②集中治療を受ける家族の特徴 ③集中治療を受ける対象への看護	講義	
	3. 医療機器の原理と取り扱い方が理解できる。	(1) 医療機器の原理	①ME機器とは ②ME機器使用のための基礎知識 ③ME機器取り扱い上の留意事項	講義	
		(2) 医療機器の取り扱い方と操作	①医療機器の取り扱い方と操作の実際 ＜心電計 人工呼吸器 輸液ポンプ ベッドサイドモニター シリンジポンプ＞	演習	
テキスト	「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論」 医学書院 「高齢者と成人の周手術期看護」 医歯薬出版株式会社 「ビジュアル臨床看護技術ガイド」 照林社				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	専門分野	授業科目	臨床看護総論	担当講師	
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的		1. 疾病の経過をふまえた看護について学ぶ。 2. 主要症状を示す対象の看護について学ぶ。 3. 特殊な検査・治療を受ける対象の看護について学ぶ。			
授業のキーワード		経過別看護 痛み 呼吸障害 意識障害 血管造影 内視鏡 核医学検査 穿刺 ドレナージ 放射線療法			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 疾病の経過をふまえた看護が理解できる。	(1) 疾病の経過をふまえた看護とは (2) 急性期の対象の看護 (3) 回復期の対象の看護 (4) 慢性期の対象の看護 (5) 終末期の対象の看護	① 疾病の経過とは ② 疾病に基づく「期」 ③ 疾病の経過をふまえた看護の意義 ① 急性期とは ② 急性期にある対象の特徴 ③ 急性期にある対象の看護 ① 回復期とは ② 回復期にある対象の特徴 ③ 回復期にある対象の看護 ① 慢性期とは ② 慢性期にある対象の特徴 ③ 慢性期にある対象の看護 ① 終末期とは ② 終末期にある対象の特徴 ③ 終末期にある対象の看護	講義 講義 講義 講義 講義	
	2. 主要症状〔疼痛・呼吸障害・意識障害〕を示す対象の看護が理解できる。	(1) 症状をふまえた看護とは (2) 痛みのある対象の看護 (3) 呼吸障害のある対象の看護 (4) 意識障害のある対象の看護	① 症状とは ② 症状をふまえた看護の意義 ① 痛みとは ② 痛みがある対象のアセスメント ③ 痛みがある対象の看護 ① 呼吸障害とは ② 呼吸障害がある対象のアセスメント ③ 呼吸障害がある対象の看護 ④ 酸素療法を受ける対象の看護 <酸素吸入・酸素ボンベの取り扱い> ⑤ 呼吸を整えるための看護 <吸入> <<吸引>> ① 意識障害がある対象の看護	講義 講義 講義 演習 講義 演習 講義	
	3. 特殊な検査をうける対象の看護が理解できる。	(1) 血管造影をうける対象の看護 (2) 内視鏡をうける対象の看護 (3) 核医学検査をうける対象の看護 (4) 穿刺をうける対象の看護	① 血管造影の目的・適応・種類 ② 血管造影をうける対象の看護 ① 内視鏡の目的・適応・種類 ② 内視鏡をうける対象の看護 ① 核医学検査の目的・適応・種類 ② 核医学検査をうける対象の看護 ① 穿刺の目的・適応・種類 ② 穿刺をうける対象の看護	講義 講義 講義 講義	

	4. 特殊な治療をうける対象の看護が理解できる。	(1) ドレナージをうける対象の看護	① ドレナージの目的・適応・種類 ② ドレナージをうける対象の看護	講義
テキスト	「新体系 看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護総論」 メヂカルフレンド社 「臨床看護学叢書 経過別看護 第2版」 メヂカルフレンド社 「系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔2〕呼吸器」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔5〕消化器」 医学書院 「系統看護学講座 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ」 医学書院 「看護過程に沿った対症看護 第5版」 学研 「ビジュアル臨床看護技術ガイド」 照林社			
成績評価の方法	筆記試験100%			

分野	専門分野	授業科目	フィジカルアセスメント	担当 講師	
開始 年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的	フィジカルアセスメントの意義を理解し、身体各部の観察法およびアセスメントについて学ぶ。				
授業のキーワード	フィジカルアセスメント フィジカルイグザム				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. フィジカルアセスメントの意義が理解できる。	(1) フィジカルアセスメントの意義	①フィジカルアセスメントとは ②フィジカルアセスメントの目的 ③系統別アセスメントと症状別アセスメント	講義	
	2. フィジカルイグザムが理解できる。	(1) スクリーニング	①基本情報の聞き取り	講義	
		(2) フィジカルイグザムの方法	①視診 ②触診 ③聴診 ④打診	講義	
	3. 系統別アセスメントが習得できる。	(1) 頭頸部・眼・耳・鼻・口のフィジカルアセスメント	①頭頸部・眼・耳・鼻・口のフィジカルアセスメントのポイント ②頭頸部・眼・耳・鼻・口のフィジカルイグザムの方法とアセスメント	講義	
		(2) 胸部（肺・胸郭）のフィジカルアセスメント	①胸部（肺・胸郭）のフィジカルアセスメントのポイント ②胸部（肺・胸郭）のフィジカルイグザムの方法とアセスメント ③フィジカルイグザミネーション 《胸部（肺・胸郭）》	講義 演習	
		(3) 胸部（心臓・血管系）のフィジカルアセスメント	①胸部（心臓・血管系）のフィジカルアセスメントのポイント ②胸部（心臓・血管系）のフィジカルイグザムの方法とアセスメント ③フィジカルイグザミネーション 《胸部（心臓・血管系）》	講義 演習	
		(4) 腹部のフィジカルアセスメント	①腹部のフィジカルアセスメントのポイント ②腹部のフィジカルイグザムの方法とアセスメント ③フィジカルイグザミネーション 《腹部》	講義 演習	
		(5) 神経系のフィジカルアセスメント	①神経系のフィジカルアセスメントのポイント ②神経系のフィジカルイグザムの方法とアセスメント ③フィジカルイグザミネーション 《神経系》	講義 演習	

	4. フィジカルアセスメント	(1) フィジカルアセスメントの実際	①事例患者のフィジカルアセスメント	演習
テキスト	「看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント」メディックメディア			
成績評価の方法	技術試験20% 筆記試験80%			

分野	専門分野	授業科目	地域・在宅看護概論 I (地域と暮らし)	担当講師	
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	
授業の目的		地域での暮らしと、地域の生活環境が健康に及ぼす影響について学ぶ。			
授業のキーワード		暮らし 家族 地域 支え合い 生活環境と健康			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 地域での暮らしを理解できる。	(1)暮らすということ (2)家族と暮らし (3)地域での暮らし (4)支え合って生きていくということ	①日々の時間の流れや場の広がり ②ライフイベント ①家族の定義 ②家族の機能 ③家族の役割 ①地域で暮らす人々 ②地域でのつながり ①支え合うということ ②支え合う人々 ③地域での支え合い	講義 講義 講義 講義 演習	
	2. 地域の生活環境が健康に及ぼす影響を理解できる。	(1) 地域の生活環境が健康に及ぼす影響	①文化的環境による影響 ②社会的環境による影響 ③自然環境による影響	講義	
テキスト		「地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア」 メディカ出版			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門分野	授業科目	地域・在宅看護概論Ⅱ (健康と暮らしを支える看護)	担当講師	
開始年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的	地域・在宅看護の基盤となる概念について学ぶ。				
授業のキーワード	家族 医療保険制度 介護保険制度 地域包括ケアシステムにおける看護 マネジメント				
時間	目 標	主 題	内 容	指 導 方 法	
	1. 地域・在宅看護の対象が理解できる。	(1) 地域・在宅看護の対象	①地域で暮らす全ての人々 ・健康状態からみた対象 ・発達段階からみた対象 ②家族	講義	
		(2) 家族を理解するための基礎理論	①家族システム理論 ②家族発達理論 ③家族ストレス対処理論	講義	
	2. 地域・在宅看護に関連する法・制度・施策を理解できる。	(1) 地域・在宅看護に関連する法・制度・施策	①医療保険制度と施策 ②介護保険制度と施策 ③権利保障に関する法と施策 ④各保健・障害者などに関する法と施策	講義	
	3. 地域で暮らす人々の健康と暮らしを支える看護について理解できる。	(1) 健康と暮らしを支える看護を提供する場	①医療機関 ②居宅 ③通所施設 ④入所施設 ⑤地域包括支援センター ⑥保健センター	講義	
		(2) 健康と暮らしを支える看護	①地域包括ケアシステムにおける看護の役割 ②自助・互助・共助・公助を支える看護 ③家族を支える看護 ④多職種・多機関との連携	講義	
	4. 地域での暮らしを継続するためのマネジメントが理解できる。	(1) 地域での暮らしを継続するためのマネジメント	①意志決定支援 ②ケアマネジメントの必要性 ③インフォーマルネットワークの維持	講義	
テキスト	「地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア」 メディカ出版				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	専門分野	授業科目	地域・在宅看護概論Ⅲ (地域での療養を支える看護)	担当講師	
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	
授業の目的		地域での療養生活を支える在宅看護・訪問看護について学ぶ。			
授業のキーワード		在宅看護 訪問看護 在宅看護における倫理 訪問看護ステーション 在宅療養における危機管理			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 在宅看護について理解できる。	(1) 在宅看護とは	①在宅看護の位置づけ ・在宅ケア ・在宅看護 ・訪問看護 ②在宅看護の役割 ③在宅看護の特徴	講義	
		(2) 訪問看護とは	①訪問看護とは ②訪問看護の制度と実施機関	講義	
		(3) 在宅看護における倫理	①療養者・家族の意思決定 ②個人情報の保護・管理 ③サービス提供者の権利の保護	講義	
	2. 在宅療養を支える訪問看護ステーションの活動について理解できる。	(1) 在宅療養を支える訪問看護ステーション	①訪問看護ステーションの開設基準 ②従事者 ③対象者 ④サービス内容 ⑤訪問サービス開始までの流れ ⑥利用料 ⑦サービスにおける質の保証 ⑧訪問看護サービスの管理・運営	講義	
		(2) 在宅療養を支える訪問看護師の役割	①悪化の予防と異常の早期発見 ②療養環境の整備 ③社会資源に関する情報提供 ④多職種との連携・調整 ⑤療養方法や介護方法の指導 ⑥家族の健康管理・介護負担の軽減	講義	
		(3) 在宅療養における危機管理	①日常生活における安全管理 ②災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理	講義	
	3. 在宅看護の課題と展望について理解できる。	(1) 在宅看護の課題と展望	①在宅看護を取り巻く社会の変化 ②今後の課題と展望	講義	
テキスト		「地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア」 メディカ出版			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門分野	授業科目	地域・在宅看護援助論 I (健康の保持増進・疾病の予防に関わる看護)	担当講師	
開始年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	
授業の目的		地域で暮らす人々の健康の保持増進・疾病の予防に関わる看護について学ぶ。			
授業のキーワード		健康教育 健康信念モデル 行動変容ステージモデル セルフケア理論 メタボリックシンドローム 歯科・口腔衛生			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 健康教育について理解できる。	(1) 健康教育とは	①健康教育とは ②健康教育の目標 ③健康教育の対象 ④健康教育の場	講義	
		(2) 健康教育のアプローチと方法	①個人と集団に対するアプローチ ②ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ ③教育技術 ④教材・教育媒体の活用 ⑤ITの活用	講義	
	2. 健康教育に必要な理論について理解できる。	(1) 健康教育に必要な理論	①健康信念モデル ②行動変容ステージモデル ③セルフケア理論	講義	
	3. 健康教育の実際について理解できる。	(1) 歯科・口腔衛生に関する健康教育	①歯科口腔保健の現状 ②オーラルフレイルへの対策 ③口腔機能向上のための健康教育	講義	
		(2) メタボリックシンドローム予防のための健康教育	①メタボリックシンドロームと生活習慣病 ②メタボリックシンドローム予防のための健康教育	講義	
テキスト		「ヘルスプロモーション」 メヂカルフレンド社			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門分野	授業科目	地域・在宅看護援助論Ⅱ (在宅で療養する人と家族の看護)	担当講師	
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的		健康障害と療養の場に応じた看護と、療養の場の変化に伴う継続看護について学ぶ。			
授業のキーワード		在宅で療養する人のアセスメント 継続看護			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 健康障害と療養の場に応じた看護が理解できる。	(1) 健康障害と療養の場に応じた看護	①治療の場から在宅への移行期における看護 ②在宅リハビリテーション期における看護 ③在宅療養の安定期における看護 ④急性憎悪期における看護 ⑤終末期における看護 ⑥グリーフケア	講義	
		(2) 継続看護の意義と実際	①在宅療養を支える継続看護の意義 ②継続看護の実際	講義	
	2. 在宅で療養する人と家族の看護が理解できる。	(1) 在宅で療養する人と家族のアセスメント	①療養者の健康状態 ②療養者の生活史と生活状況・生活習慣 ③家族の生活状況・生活習慣 ④居住環境と地域環境 ⑤社会資源の活用状況 ⑥療養者と家族の価値観・要望 ⑦療養者と家族の生活に影響を及ぼす因子	講義	
		(2) 在宅で療養する人と家族の看護	①悪化の防止と異常の早期発見 ②療養環境の整備 ③社会資源に関する情報提供 ④多職種との連携・調整 ⑤療養方法や介護方法の指導 ⑥家族の健康管理・介護負担の軽減	講義	
		(3) 在宅で療養する人と家族の事例展開	①脳血管障害の療養者と家族の看護	講義 演習	
テキスト		「地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア」 メディカ出版			
成績評価の方法		筆記試験 100%			

分野	専門分野	授業科目	地域・在宅看護援助論Ⅲ (在宅療養を支える援助技術)	担当講師	
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的		在宅療養を支える援助技術について学ぶ。			
授業のキーワード		訪問時のマナー	在宅での日常生活援助	在宅での医療処置	
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 訪問看護時のマナーと留意点について理解できる。	(1) 訪問看護時のマナー	①在宅で看護を提供すること ②服装・持ち物 ③訪問看護時のマナー	講義	
		(2) 訪問看護時における留意点	①契約内容をふまえた援助 ②療養者・家族の意向をふまえた援助 ③療養者・家族の個別性をふまえた援助 ④療養環境に合わせた援助 ⑤コスト意識と物品の工夫	講義	
	2. 在宅療養を支える日常生活援助技術を習得できる。	(1) 日常生活援助	①住環境の整備 ②食事の援助 ③排泄の援助 ④清潔の援助 《入浴介助》 《家庭にある物品を使用した洗髪・陰部洗淨》 ⑤移動の援助 《福祉用具を使用した移動》 ・ベッド上での体位変換 ・ベッドと車椅子間の移乗	講義	演習
	3. 在宅療養を支える医療処置に伴う援助を理解できる。	(1) 医療処置に伴う援助	①服薬支援 ②経管栄養法 《経鼻栄養・胃瘻栄養》 ③在宅輸液管理 ④膀胱留置カテーテル管理 ⑤在宅酸素療法 (HOT) ⑥在宅人工呼吸療法 (HMV) ⑦持続携行式腹膜灌流 (CAPD) ⑧在宅における褥瘡予防と褥瘡ケア <褥瘡予防と褥瘡ケア> ⑨在宅におけるストーマケア <人工肛門> 人工膀胱	講義	演習 講義 演習
テキスト		「地域・在宅看護論② 地域療養を支える技術」 メディカ出版			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門分野	授業科目	成人看護学概論	担当講師	
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的	成人期の特徴を理解し、成人看護に必要な基本を学ぶ。				
授業のキーワード	成人 アイデンティティの確立 仕事 家族 アンドラゴジー 生活習慣 ストレス 保健・医療・福祉システム ヘルスプロモーション				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 成人期の対象の特徴が理解できる。	(1) 生涯発達の視点からみた成人期	①青年期の特徴 a) 身体の発達 b) 心理・社会的発達 c) セクシュアリティの発達 ②壮年期・中年期の特徴 a) 身体の発達 b) 心理・社会的発達 c) セクシュアリティの発達	講義	
		(2) 成人の生活	①家族の中で成人の果たす役割 ②人として働くことの意味 ③働く成人の生活 ④成人の健康行動	講義	
		(3) 成人をめぐる衛生統計の概要	①人口と平均寿命 ②死因・死亡率 ③受療率	講義	
		(4) 成人の健康な生活を脅かす要因と健康問題	①健康バランスに影響を及ぼす要因 a) ライフスタイル b) ストレス ②就労や労働形態の変化がもたらす健康問題 ③生活習慣がもたらす健康問題 a) 飲酒 b) 喫煙 c) 運動不足 d) 肥満 ④引きこもり、うつ、ネット依存などの新たな健康問題	講義	
	2. 成人看護に必要な基礎理論が理解できる。	(1) 学習に基づく行動形成	①行動の成立 ②行動の動機 ③観察学習	講義	
		(2) 成人教育理論 (アンドラゴジー)	①アンドラゴジーの定義 ②アンドラゴジーにおける成人の特徴 ③アンドラゴジーモデルにおける学習プログラムの要素	講義	

	<p>3. 成人看護の役割が理解できる。</p>	<p>(1)ヘルスプロモーション</p> <p>(2)職場におけるヘルスプロモーション</p> <p>(3)健康問題をもつ対象への支援</p>	<p>①健康増進への主体性を高めるための支援</p> <p>②健康生活の具体的な支援</p> <p>a) 食生活</p> <p>b) 運動</p> <p>c) 休養</p> <p>d) ストレスマネジメント</p> <p>①労働者の健康増進のための施策</p> <p>②健康増進のための産業保健活動</p> <p>①倫理的判断</p> <p>②意思決定支援</p> <p>③家族支援</p>	<p>講義</p> <p>講義 演習</p> <p>講義</p>
	<p>4. 成人期における保健・医療・福祉システムが理解できる。</p>	<p>(1)保健に関わる対策と実際</p> <p>(2)医療にかかわる対策</p> <p>(3)福祉にかかわる対策</p> <p>(4)保健・医療・福祉の連携と実際</p>	<p>①健康増進・生活習慣病対策</p> <p>②健康危機管理</p> <p>③感染症対策</p> <p>④高齢者の医療の確保に関する法律に伴う保健事業</p> <p>①医療法の改正に伴う施策の変遷</p> <p>②難病対策</p> <p>①障害者福祉</p> <p>②高齢者福祉</p> <p>①生涯発達・健康状態からみた保健・医療・福祉システムの提供と実際</p> <p>②保健・医療・福祉システムの重要性</p>	<p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p>
<p>テキスト</p>	<p>「系統看護学講座 成人看護学〔1〕成人看護学総論」 医学書院</p> <p>「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会</p>			
<p>成績評価の方法</p>	<p>筆記試験100%</p>			

分野	専門分野	授業科目	成人看護学援助論 I (急性期にある対象の看護)	担当 講師	
開始 年次	2年 前期	単位数 時間数	1 単位 30 時間	実務 経験	
授業の目的	急性期にある成人期の対象の看護について学ぶ。				
授業のキーワード	急性期 周手術期 生命の危機 苦痛 不安・恐怖 家族の不安				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 急性期にある成人期 の対象の看護を理解 できる。	(1) 急性期にある成人期 の対象の特徴	① 身体面の特徴 a) 生命の危機 b) 身体の苦痛 c) セルフケアの不足 ② 心理・社会面の特徴 a) 社会的役割への葛藤 b) 不安 c) 家族の不安	講義	
		(2) 急性期にある成人期 の対象の看護	① 症状の観察と救命 ② 苦痛の軽減 ③ 不安・恐怖の軽減 ④ セルフケアの援助 ⑤ 家族への援助	講義	
		(3) 循環器系で急性期に ある成人期の対象の事 例展開	① 急性心筋梗塞で中年 期にある対象(男性)の 事例展開 ② ≪輸液ライン挿入中 の対象の寝衣交換≫	講義 演習 演習	
		(4) 周手術期にある成人 期の対象の看護	① 全身麻酔の SCP をも とに肺癌で肺切除術を 受ける対象の計画立案 ・術前・術直後・術後 ② 胸腔ドレーン(低圧持 続吸引)留置の目的 ③ 胸腔ドレーン(低圧持 続吸引)留置中の看護、 ドレーン管理 <創傷処置> ④ ≪体位ドレナージ≫	講義 演習 演習	
テキスト	「系統看護学講座 成人看護学〔1〕成人看護学総論」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔2〕呼吸器」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔3〕循環器」 医学書院 「ビジュアル臨床看護技術」 照林社 「看護過程に沿った対症看護」 学研 「NANDA-I 看護診断 定義と分類 2021-2023」 医学書院				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	専門分野	授業科目	成人看護学援助論Ⅱ (回復期にある対象の看護)	担当講師	
開始年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的	回復期にある成人期の対象の看護について学ぶ。				
授業のキーワード	回復期 機能回復 合併症・二次的障害の予防 障害受容 ライフスタイルの変更 生活の再構築				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 回復期にある成人期 の対象の看護を理解 できる。	(1) 回復期にある成人期 の対象の特徴	①身体面の特徴 a) 身体機能の低下 b) 障害 c) 合併症・二次的障害の出現 リスク d) セルフケアの不足 ②心理・社会面の特徴 a) 社会復帰に向けての不安 b) 障害の受容過程 c) ボディイメージの変容 d) ライフスタイルの変更に伴う ストレス	講義	
		(2) 回復期にある成人期 の対象の看護	①機能回復のための援助 ②異常の早期発見と悪化の 予防 ③セルフケアに関する援助 ④不安の軽減 ⑤障害受容への援助 ⑥社会復帰への援助 ⑦家族に対する援助	講義	
		(3) 脳神経系で回復期にある 成人期の対象の事例展開	①脳梗塞で中年期にある対象 (女性)の事例展開	講義 演習	
		(4) 言語障害のある対象の 看護	①言語障害とは ②失語症・構語障害のある 対象の看護 ③言語障害のある対象の リハビリテーション	講義	
		(5) 運動麻痺のある対象の 看護	①移動・移乗の援助 車いす・ベッド間の移乗 杖歩行	講義	
		(6) 運動器系に障害をもつ 回復期にある成人期 の対象の看護	①下肢切断術を受けた患者 の障害受容のための看護 ②牽引療法を受ける対象 の看護 ③ギプス療法を受ける対象 の看護	講義	
テキスト	「系統看護学講座 成人看護学〔1〕成人看護学総論」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔7〕脳・神経」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔10〕運動器」 医学書院 「系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護」 医学書院 「看護過程に沿った対症看護」 学研 「NANDA・I看護診断 定義と分類 2021-2023」 医学書院				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門分野	授業科目	成人看護学援助論Ⅲ (慢性期にある対象の看護)	担当講師	
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的	慢性期にある成人期の対象の看護について学ぶ。				
授業のキーワード	慢性期 生活習慣 自己管理 自己効力理論 エンパワーメントモデル 学習支援				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 慢性期にある成人期の対象の看護を理解できる。	(1) 慢性期にある成人期の対象の特徴	①身体面の特徴 a) 合併症・二次的障害の出現 b) 慢性的な症状による苦痛 ②心理・社会面の特徴 a) ライフスタイルの変更 b) 役割遂行の困難 c) 不安	講義	
		(2) 慢性期にある成人期の対象の看護に必要な理論	①病みの軌跡 ②自己効力理論 ③エンパワーメントモデル	講義	
		(3) 慢性期にある成人期の対象への学習支援	①学習支援の目標 ②学習支援の場 ③学習支援の時期 ④学習支援の進め方 a) アセスメント b) 目標の設定 c) 学習支援の計画立案 d) 実施 e) 評価	講義	
		(4) 慢性期にある成人期の対象の看護	①疾病の自己コントロールのための援助 ②ライフスタイルの変更への援助 ③不安の軽減 ④家族や社会との調整	講義	
		(5) 内分泌系で慢性期にある成人期の対象の事例展開	①糖尿病で中年期にある対象(男性)の事例展開 ②<<簡易血糖測定>>	講義 演習	
		(6) 腎不全で慢性期にある成人期の対象の看護	①シャントの管理 ②食事療法 ③ライフスタイル変更への援助 ④社会資源の活用	講義	
テキスト	「系統看護学講座 成人看護学〔1〕成人看護学総論」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔6〕内分泌・代謝」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔8〕腎・泌尿器」 医学書院 「看護過程に沿った対症看護」 学研 「NANDA・I看護診断 定義と分類 2021-2023」 医学書院				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門分野	授業科目	成人看護学援助論Ⅳ (終末期にある対象の看護)	担当講師	
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1 単位 1 5 時間	実務 経 験	
授業の目的	終末期にある成人期の対象の看護について学ぶ。				
授業のキーワード	終末期 全人的苦痛 死の受容 グリーフケア 症状マネジメント				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 終末期にある成人期 の対象の看護を理解 できる。	(1) 終末期にある成人期 の対象の特徴	①身体面の特徴 a) 全身的な苦痛・身体の変化 b) 生命の危機 c) セルフケアの不足 ②心理・社会面の特徴 a) 死の受容過程 b) 役割の喪失 c) 家族の不安・悲嘆	講義	
		(2) 終末期にある成人期 の対象の看護	①全人的な苦痛の緩和 a) 苦痛に対する症状マネジメント ・身体的苦痛 ・精神的苦痛 ・社会的苦痛 ・霊的苦痛 ②死の受容への援助 ③QOLの向上への援助 ・アドバンスケアプランニング ④役割変更に対する援助 ⑤家族への援助 ⑥セルフケアへの援助 ⑦グリーフケア ⑧病状の観察	講義	
		(3) 臨終時の看護	①死の3兆候 ②死亡に伴う身体的変化 ③エンゼルケア ④退院時の見送りと手続き	講義	
テキスト	「経過別成人看護学④ 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア」メヂカルフレンド社 「系統看護学講座 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ」 医学書院				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	専門分野	授業科目	成人看護学援助論V (がん治療を受ける対象の看護)	担当講師	
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	
授業の目的	がん医療の動向と看護の役割を理解し、がん治療を受ける対象の看護について学ぶ。				
授業のキーワード	がんサバイバー がんサバイバーシップ 放射線療法 薬物療法				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. がん医療の動向と看護の役割について理解することができる。	(1) がん医療の動向と看護の役割	①がん医療対策・看護のあゆみとがん対策基本法 ②がん対策推進基本計画 ③がん医療の均てん化における看護の役割	講義	
	2. がんと共に生きる対象者とその対象者を支える人々について理解することができる。	(1) がんサバイバーの理解	①がんサバイバーとは ②がんサバイバーシップとは ③がんサバイバーシップの視点から見たサポート ④がん診断・告知後のケア(AYA世代も含んでケアについて学ぶ) ⑤がん医療における地域包括ケア	講義	
	3. がん病変に対する治療とその看護について理解することができる。	(1) 放射線療法を受ける対象者の看護	①放射線療法とは ②放射線被曝防御対策 ③放射線療法の有害事象 ④放射線療法を受ける対象の看護	講義	
		(2) 薬物療法を受ける対象者の看護	①抗悪性腫瘍薬とは ②抗悪性腫瘍薬の主作用と副作用 ③抗悪性腫瘍薬投与管理における注意点 ④抗悪性腫瘍薬を受ける対象の看護	講義	
テキスト	「系統看護学講座 別巻 がん看護学」 医学書院 「系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学」 医学書院				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	専門分野	授業科目	高齢者看護学概論	担当講師	
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	
授業の目的	高齢者の特徴とその生活を理解し、高齢者看護の概念を学ぶ。				
授業のキーワード	老年期 介護家族	高齢者 高齢者と社会	加齢と老化 権利擁護	生活 フレイル	高齢者と家族
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 老年期を生きる人々の特徴が理解できる。	(1) 老年期とは	①老年期の定義 ②加齢と老化 ③生活の変化 ④老年期の発達と成熟の意味	講義	
		(2) 加齢に伴う変化	①身体的機能の変化 ＜高齢者擬似体験＞ ②心理・精神的機能の変化 ③社会的機能の変化 ④フレイル ⑤疾病をめぐる特徴	講義 演習	
	2. 高齢者をとりまく社会について理解できる。	(1) 高齢社会の動向	①統計からみた我が国の高齢者 ②高齢化の国際的動向	講義	
		(2) 高齢者と家族の支援	①介護家族の生活 ②家族エンパワメントの視点 ③介護家族の課題	講義	
	3. 高齢者看護の基本的な考え方が理解できる。	(1) 高齢者看護の基本	①高齢者のQOL ②高齢者看護活動の特性 ③高齢者看護の原則 ④高齢者看護に適用する理論・概念	講義	
		(2) 高齢者看護の倫理	①高齢者の権利擁護 ②高齢者の虐待	講義	
テキスト	「系統看護学講座 老年看護学」 医学書院 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門分野	授業科目	高齢者看護学援助論 I (健康支援と日常生活援助)	担当 講師	
開始 年次	2年 前期	単位数 時間数	1 単位 30 時間	実務 経験	
授業の目的	高齢者の健康と日常生活を支える看護について学ぶ。				
授業のキーワード	高齢者の健康	高齢者の日常生活動作評価	高齢者の日常生活援助	廃用症候群	
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 高齢者の健康を支える 看護が理解できる。	(1) 高齢者の健康と看護	①健康生活の維持と快適に過ごす ための援助 ②高齢者のヘルスプロモーション	講義	
		(2) 高齢者の日常生活活 動の評価	①高齢者総合機能評価「CGA」 ②基本的な ADL の評価 ・カツインデックス ・バーセルインデックス ・FIM ③手段的 ADL の評価 ・IADL 尺度 ・老研式活動能力指標	講義	
		(3) 廃用症候群のアセス メントと看護	①廃用症候群の定義 ②廃用症候群の原因とおもな症状 ③廃用症候群の予防策 〈自動運動・他動運動〉	講義 演習	
		(4) 転倒のアセスメント と看護	①転倒が及ぼす影響 ②転倒の原因 ③転倒の予防	講義 演習	
	2. 高齢者の日常生活を支 える看護が理解できる。	(1) 加齢に伴う主要な機 能障害の看護	①摂食障害、嚥下障害 ②脱水 ③排尿障害 ④排便障害 〈おむつ交換・摘便〉 ⑤睡眠障害 ⑥視覚障害 ⑦聴覚障害 ⑧コミュニケーション障害	講義 演習 講義	
テキスト	「系統看護学講座 老年看護学」 医学書院				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	専門分野	授業科目	高齢者看護学援助論Ⅱ (認知症と終末期の看護)	担当講師	
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的		認知症や終末期にある高齢者の看護と、高齢者施策の現状と課題について学ぶ。			
授業のキーワード		認知症看護 高齢者施策	地域包括ケアシステム 介護保険	終末期にある高齢者	
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 認知症のある高齢者について理解できる。	(1) 認知症のある高齢者	①認知症のある高齢者 ・認知症の定義 ・認知症の基本構造 ・認知症の診断・治療・予防	講義	
	2. 認知症のある高齢者の看護が理解できる。	(1) 認知症のある高齢者の看護	①認知症が高齢者の生活に与える影響 ②認知症のある高齢者とのコミュニケーション ③認知症のある高齢者の日常生活自立支援 ④認知症のある高齢者の心身の活性化 ⑤認知症の精神症状・行動障害への対応 ⑥認知症のある高齢者の安全を守るための援助 ・安全面、健康管理、事故予防 ⑦認知症のある高齢者を取り巻く環境と環境調整 ⑧認知症のある高齢者の家族への支援	講義	
	3. 高齢者の終末期の看護が理解できる。	(1) 高齢者の終末期の看護	①高齢者の終末期の特徴 ・エンドオブライフ ②苦痛の緩和 ③死への受容への援助 ・アドバンスケアプランニング ・アドバンスディレクティブ ・リビングウィル ④高齢者の人格の尊重 ⑤家族への援助 ・グリーンケア	講義	
	4. 高齢者施策が理解できる。	(1) 高齢者施策の現状	①高齢者の保健・医療・福祉施策の変遷 ②高齢者施策の基本的な考え方 ・高齢社会対策基本法 ③健康づくりの総合的推進 ④地域包括ケアシステム ⑤介護保険 ⑥高齢者医療制度	講義	
		(2) 高齢者施策の課題	①高齢者の要介護者数の増加 ②認知症のある高齢者の増加 ③介護サービスや支援サービスの提供 ④超高齢社会に対応するための施策	講義	

		(3) 認知症に対する施策	①認知症のある高齢者へのケアシステム <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症予防教室 ・ グループホームの整備 ・ 相談事業 ②認知症のある高齢者の人権と権利擁護 <ul style="list-style-type: none"> ・ 権利擁護事業 	講義
テキスト	「系統看護学講座 老年看護学」 医学書院 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会 「福祉小六法」 中央法規			
成績評価の方法	筆記試験 100%			

分野	専門分野	授業科目	高齢者看護学援助論Ⅲ (検査・治療に伴う看護)	担当 講師	
開始 年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的	検査・治療を受ける高齢者に対する看護について学ぶ。				
授業のキーワード	高齢者と薬物療法	高齢者と検査	高齢者と手術療法	退院調整	
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 検査、治療を受ける高齢者の看護が理解できる。	(1) 検査、治療を受ける高齢者の看護 (2) 手術療法を受ける高齢者の事例展開	①薬物療法 ②検査 ③外来受診 ④手術療法 ①大腿骨頸部骨折で手術療法を受ける認知症の高齢者の事例展開 ・術前～退院まで 退院調整 多職種連携	講義	講義 演習
テキスト	「系統看護学講座 老年看護学」 医学書院 「系統看護学講座 臨床外科看護総論」 医学書院 「系統看護学講座 運動器」 医学書院 「高齢者と成人の周手術期看護 2」 医歯薬出版株式会社 「NANDA-I看護診断 定義と分類 2021-2023」 医学書院				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門分野	授業科目	小児看護学概論Ⅰ (小児看護の役割)	担当 講師	
開始 年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 15時間	実 務 経 験	
授業の目的		子どもと家族の健康を支えるための看護について学ぶ。			
授業のキーワード		子ども 家族 子どもの権利			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 子どもと家族を取り巻く社会の状況を理解できる。	(1)子どもと家族の理解	①子どもの概念 ②ライフサイクルからみた小児期 ③子どもと家族	講義	
		(2)子どもを取り巻く社会状況	①人口動態からみた統計の変化 ②子ども観の変遷 ③子どもと家族を支える法律と社会制度 ・母子保健と子育て支援 ・学校保健 ・予防接種 ・難病・障害児保健福祉	講義	
	2. 小児看護の役割を理解できる。	(1)小児看護とは	①小児看護の対象 ②小児看護の場 ③小児看護の目標 ④小児看護の役割	講義	
		(2)小児看護の変遷	①小児医療の変遷 ②小児看護の変遷 ③小児看護の課題	講義	
	3. 子どもの権利と看護を理解できる。	(1)子どもの人権と看護	①子どもの人権 ②子どもの虐待 ③子どもの権利に関する法律・施策 ④被虐待児と家族の看護	講義	
		(2)小児看護における倫理	①小児看護における倫理的問題 ②小児看護と倫理的配慮	講義	
テキスト	「ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護」 メディカ出版 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門分野	授業科目	小児看護学概論Ⅱ (子どもの成長と発達)	担当講師	
開始年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的	子どもの成長・発達を理解し、健康増進のための子どもと家族への支援について学ぶ。				
授業のキーワード	成長・発達 発達段階 発達課題 エリクソンの自我発達理論 ピアジェの認知発達理論 親子関係論				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 子どもの成長・発達について理解できる。	(1) 子どもの成長・発達とは	①成長・発達の原則 ②成長・発達に影響する因子 ③成長・発達の評価	講義	
		(2) 小児看護に必要な理論	①セルフケア理論 ②エリクソンの自我発達理論 ③ピアジェの認知発達理論 ④親子関係論 ⑤家族理論	講義	
	2. 子どもの発達段階の特徴と健康増進のための看護について理解できる。	(1) 新生児・乳児の特徴と健康増進のための看護	①新生児・乳児期の成長・発達 ②新生児・乳児期の養育 ・新生児・乳児の栄養 ・遊びと運動	講義	
		(2) 幼児の特徴と健康増進のための看護	①幼児期の成長・発達 ②幼児期の養育 ・幼児の栄養 ・基本的生活習慣の獲得 ・安全対策 (事故防止)	講義	
		(3) 学童の特徴と健康増進のための看護	①学童期の成長・発達 ②学童期における健康増進の支援 ・栄養と食生活 ・学習と遊び	講義	
		(4) 思春期の子どもの特徴と健康増進のための看護	①思春期の成長・発達 ②思春期における健康増進の支援 ・第二性徴、性意識 ・精神的自立 (親離れ) ③思春期の健康問題と児と家族への看護	講義	
テキスト	「ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護」 メディカ出版				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	専門分野	授業科目	小児看護学援助論 I (疾患・障害のある子どもの看護)	担当講師	
開始年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的		1. 健康障害のある子どもと家族への看護について学ぶ。 2. 子どもの主な疾患の病態生理、検査、診断、治療について学ぶ。			
授業のキーワード		子どもの疾病・障害 外来受診 入院 在宅			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 疾病・障害のある子どもと家族への看護が理解できる。	(1) 疾病・障害が子どもと家族に与える影響	① 疾病・障害に対する子どもの反応 ② 疾病・障害のある子どもと家族の反応	講義	
		(2) 子どもの健康問題と看護	① 症状の改善と苦痛の緩和 ② 治療における意思決定の支援 ③ 発達段階に即したセルフケアの支援 ④ 子どもの日常生活にかかわる援助	講義	
		(3) 健康問題のある子どもの家族の看護	① 親・きょうだいへの支援 ② 家族関係の調整と社会資源の活用	講義	
	2. 主要症状を示す子どもと家族の看護が理解できる。	(1) 主要症状を示す子どもと家族の看護	① 不機嫌 ② 啼泣 ③ 痛み ④ 発熱 ⑤ 嘔吐 ⑥ 下痢 ⑦ 脱水 ⑧ けいれん ⑨ 発疹	講義	
	3. さまざまな場や状況にある子どもと家族への看護が理解できる。	(1) 入院中の子どもと家族の看護	① 入院環境と家族 ② 子どもの入院が家族に及ぼす影響と家族の反応 ③ 入院生活適応への支援 ④ 退院後の生活支援	講義	
		(2) 外来における子どもと家族の看護	① 外来を受診する子どもと家族の特徴 ② 外来を受診する子どもと家族の看護 ・ 小児外来の環境 ・ 外来看護の役割	講義	
		(3) 生活制限のある子どもと家族の看護	① 活動制限のある子どもと家族の看護 ② 隔離中の子どもと家族の看護 ③ 食事制限のある子どもと家族の看護	講義	
		(4) 在宅における子どもと家族の看護	① 小児在宅ケアの現状 ② 在宅療養を必要とする子どもと家族の特徴 ③ 在宅療養を必要とする子どもと家族の看護	講義	
		(5) 災害を受けた子どもと家族の看護	① 災害を受けた子どもの心と身体への影響 ② 災害時の子どもと家族への看護	講義	

4. 子どもの主な疾患の病態生理、検査、診断、治療について理解できる。	(1) 新生児・低出生体重児の疾患	①呼吸窮迫症候群 ②新生児仮死 ③高ビリルビン血症	講義
	(2) 染色体異常	①ダウン症候群 ②ターナー症候群 ③軟骨無形成症	講義
	(3) 感染症	①麻疹 ②風疹 ③水痘 ④流行性耳下腺炎 ⑤百日咳 ⑥インフルエンザ ⑦伝染性単核球症 ⑧手足口病	講義
	(4) 消化器疾患	①腸重積 ②幽門狭窄症 ③急性乳幼児下痢症・急性胃腸炎	講義
	(5) 循環器疾患	①先天性心疾患 ②川崎病	講義
	(6) 呼吸器疾患	①気管支喘息 ②気管支炎 ③肺炎 ④クループ症候群	講義
	(7) 神経疾患	①てんかん ②熱性けいれん ③脳性麻痺 ④筋ジストロフィー	講義
	(8) アレルギー疾患	①アトピー性皮膚炎 ②食物アレルギー	講義
	(9) 腎疾患	①ネフローゼ症候群 ②糸球体腎炎	講義
	(10) 代謝、内分泌疾患	①低身長 ②フェニルケトン尿症 ③甲状腺機能低下症 ④I型糖尿病	講義
	(11) 血液・腫瘍疾患	①鉄欠乏性貧血 ②特発性血小板減少性紫斑病 ③血友病 ④白血病 ⑤ウイルス腫瘍 ⑥神経芽腫	講義
テキスト	「ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護」 メディカ出版 「ナーシンググラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護」 メディカ出版		
成績評価の方法	筆記試験 100%		

分野	専門分野	授業科目	小児看護学援助論Ⅱ (健康の段階・発達段階に応じた看護)	担当講師	
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的		1. 疾病の経過をふまえた子どもと家族への看護について学ぶ。 2. 発達段階に応じた子どもへの看護技術を学ぶ。			
授業のキーワード		疾病の経過 発達段階 看護技術			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 疾病の経過をふまえた子どもと家族への看護を理解できる。	(1) 急性期にある子どもと家族の看護	①急性期の子どもの特徴 ②急性期の家族の特徴 ③急性期の子どもと家族への看護	講義	
		(2) 周手術期の子どもと家族の看護	①子どもの手術の特徴 ②手術を受ける子どもの反応 ③周手術期の子どもと家族の看護 ④退院への指導や援助と継続看護	講義	
		(3) 慢性期にある子どもと家族の看護	①慢性期の子どもと家族の特徴 ②慢性期の子どもと家族の看護	講義	
		(4) 終末期にある子どもと家族の看護	①子どもの生命、死についてのとらえ方 ②終末期にある子どもの看護 ③終末期にある子どもの家族の看護	講義	
		(5) 気管支喘息による子どもと家族の事例展開	①気管支喘息の乳児期、幼児期、学童期にある対象の事例展開	講義 演習	
	2. 小児看護に必要な看護技術を習得できる。	(1) 検査・処置をうける子どもと家族の看護	①発達に応じた説明と同意 ②子どもの安全・安楽への援助 ③子どもの家族への援助	講義	
		(2) 発達段階に応じた看護技術	①安全な入院環境の整備 ②バイタルサイン ③身体測定 ④与薬 ⑤輸液管理 ⑥吸入療法 ⑦酸素療法 ⑧検体採取 ⑨乳幼児、学童に必要な看護技術 《輸液管理》 《骨髄穿刺・腰椎穿刺》 《吸入療法》 《援助場面における説明の方法》 ・乳幼児、学童のバイタルサイン測定 ・乳幼児、学童の与薬方法 ・乳幼児、学童のコミュニケーション	講義 演習	
テキスト	「ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護」 メディカ出版 「ナーシンググラフィカ 小児看護学② 小児看護技術」 メディカ出版 「NANDA-I看護診断 定義と分類 2021-2023」 医学書院				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	専門分野	授業科目	ウイメンズヘルス看護概論 I (女性の健康と看護)	担当 講師	
開始 年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	
授業の目的		ウイメンズヘルスの概念、及び、対象を取り巻く社会の変遷・動向から女性の健康と看護について学ぶ。			
授業のキーワード		ウイメンズヘルス リプロダクティブヘルス / ライツ ヘルスプロモーション 母性 性 セクシュアリティ 生命倫理 母子保健			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. ウイメンズヘルス看護の基盤となる概念を理解する。	(1) ウイメンズヘルスの概念	①ウイメンズヘルスとは ②リプロダクティブヘルス/ライツ ③ヘルスプロモーション ④女性の生涯にわたる健康教育	講義	
		(2) 母性と看護	①親性、母性および父性の概念 ②母子関係に関する概念 ③母性看護の対象と役割 ④母性看護の場と職種	講義	
		(3) 人間の性と生殖	①人の発生と分化 ②人間の性の特徴 ③セクシュアリティ	講義	
		(4) 女性の意思決定支援と倫理	①生命倫理と看護倫理 ②倫理的意志決定と支援 ・権利と擁護 ・自己決定(意思決定)と支援 ・プライバシーの保護	講義	
	2. 女性を取り巻く社会の現状と健康をめぐる課題について理解する。	(1) 女性を取り巻く環境の変化	①家族および地域社会の変化	講義	
		(2) 女性の健康と社会	①母子保健統計からみた動向 ②母子保健関連の法律・施策 ③母子保健施策からみた現状と課題 ・育児不安と虐待 ・性暴力 ④国際化社会と看護 ・在日外国人の出産と子育て ⑤災害時の看護	講義	
テキスト	「系統看護学講座 母性看護学〔1〕母性看護学概論」 医学書院 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	専門分野	授業科目	ウィメンズヘルス看護概論Ⅱ (女性のライフサイクルと看護)	担当講師	
開始年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的	女性のライフサイクル各期の特徴と女性特有の健康問題と看護について学ぶ。				
授業のキーワード	ライフサイクル 性機能 性教育 家族計画 不妊・不育症 育児不安 虐待 更年期障害 女性生殖器疾患				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 女性のライフサイクルの特徴と健康、ライフサイクル各期の健康問題に対する看護について理解する。	(1) 女性のライフサイクル (2) 思春期の健康と看護 (3) 成熟期の健康と看護 (4) 更年期の健康と看護 (5) 老年期の健康と看護	①女性のライフサイクルと健康 ②現代女性のライフサイクルの変化 ①思春期の特徴と健康教育 第二次性徴 月経 栄養 性教育と課題 ②思春期の健康問題と看護 月経異常 貧血 摂食障害 ③性がもたらす問題の多様性 人工妊娠中絶 性感染症 性暴力 ①成熟期の特徴と健康教育 婚姻と就労 家族計画 子育て ②成熟期の健康問題と看護 不妊・不育症と生殖補助医療 周産期の死 ③子育てに関わる問題 育児不安と虐待 ①更年期の特徴と健康教育 閉経 ②更年期におこりやすい健康問題と看護 ③更年期障害 ①老年期の特徴と健康教育 ②老年期におこりやすい健康問題と看護	講義 講義 講義 講義 講義	
	2. 女性の生殖機能に影響を与える健康問題の看護について理解する。	(1) 女性生殖器疾患をもつ対象の看護	①診察時の看護 ②子宮疾患・卵巣疾患対象の看護 手術療法、化学療法、放射線療法を受ける対象の看護 ③乳房疾患対象の看護 手術療法、化学療法、放射線療法を受ける対象の看護	講義	
テキスト	「系統看護学講座 母性看護学〔1〕母性看護学概論」医学書院 「系統看護学講座 母性看護学〔2〕母性看護学各論」医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔9〕女性生殖器」医学書院				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門分野	授業科目	ウィメンズヘルス看護援助論 I (妊娠期・分娩期の看護)	担当 講 師	
開始 年次	2年 前期	単位数 時間数	1 単位 30 時間	実 務 経 験	
授業の目的		妊娠期・分娩期の生理的変化や経過及び看護を学ぶ。また、妊娠期・分娩期における主な異常が母子に及ぼす影響について学ぶ。			
授業のキーワード		妊娠 胎児 分娩 生理的変化 早期母子接触 愛着形成 ハイリスク妊娠 異常妊娠 異常分娩			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 正常な経過をたどる妊婦の看護が理解できる。	(1) 妊娠の生理と身体的、心理・社会的特徴と看護	①妊娠の成立 ②母体の生理的変化 ③胎児の発育とその生理 ④妊婦の健康診査 ・保健指導、妊娠の届け出 ・胎児心拍モニタリング <腹囲、子宮底測定> ⑤妊娠の受容と看護 胎児との愛着形成 ⑥妊婦と家族の看護 ・母乳栄養の利点 ・サポートシステムとサポート ⑦分娩の計画と準備 ・分娩前教育 ・バースプラン	講義 演習 講義	
	2. 妊娠期にみられる異常と妊婦の看護が理解できる。	(1) ハイリスク妊娠・異常妊娠と看護	①ハイリスク妊娠 ②妊娠期の感染症 ③妊娠疾患 ・妊娠糖尿病 ・妊娠高血圧症候群 ・血液型不適合妊娠 ④多胎妊娠 ⑤妊娠持続期間の異常 ⑥ハイリスク妊婦の看護	講義	
	3. 正常な経過をたどる産婦の看護が理解できる。	(1) 分娩の進行と産婦の身体的、心理・社会的特徴と看護	①分娩の要素 ②分娩の経過 <胎児付属物の観察> ③産婦と家族の看護 ・早期母子接触 ・バースレビュー	講義 演習	
	4. 分娩期にみられる異常と産婦の看護が理解できる。	(1) 分娩の異常と看護	①分娩にみられる異常 産道の異常・陣痛の異常・胎児付属物の異常(羊水混濁・MASを含む) 分娩時異常出血 産科処置と産科手術 ②異常分娩時の産婦の看護	講義	
	5. 事例を用いて妊娠期・分娩期の看護が理解できる。	(1) アセスメントと看護	①妊娠期のアセスメントと看護 ②分娩期のアセスメントと看護	講義 演習	
テキスト	「系統看護学講座 母性看護学〔2〕母性看護学各論」医学書院				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	専門分野	授業科目	ウイメンズヘルス看護援助論Ⅱ (産褥期・新生児期の看護)	担当講師	
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的		産褥期・新生児期の生理的变化や経過及び看護を学ぶ。また、産褥期・新生児期における主な異常が母子、家族に及ぼす影響について学ぶ。			
授業のキーワード		産褥 退行性変化 進行性変化 役割獲得 新生児 子宮外適応現象 愛着・母子相互作用 産後うつ			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 正常な経過をたどる褥婦の看護が理解できる。	(1) 褥婦の身体的、心理・社会的変化と特徴 (2) 褥婦と家族の看護	①退行性変化 ②進行性変化 ③褥婦・家族の心理的变化 ①身体機能回復への看護 ・生殖器の復古の観察と看護 ・全身の復古の観察と看護 ・退院指導 ②母乳栄養確立への看護 ・乳房・乳頭の観察 ・栄養 ・授乳介助と指導 (授乳、搾乳) ③役割獲得への看護 ・愛着・母子相互作用 ・育児技術 ・産後ケア ・子育て支援	講義 講義	
	2. 産褥期にみられる異常と褥婦の看護が理解できる。	(1) 産褥の異常と褥婦の看護	①子宮復古不全 ②産褥感染症 ③産褥血栓症 ④マタニティブルーズ ⑤産後うつ ⑥産褥期の異常と看護	講義	
	3. 正常な経過をたどる新生児の看護が理解できる。	(1) 新生児の機能と生理的变化 (2) 出生直後の看護 (3) 新生児期の生理的变化と看護 (4) 医療事故と予防策	①新生児の機能 ②生理的变化 ・生理的体重減少 ・生理的黄疸 ①出生直後の観察・測定 ②出生直後のアセスメントと看護 ・新生児蘇生のアルゴリズム ①子宮外生活への適応状態 ・日々の観察とアセスメント ②子宮外生活適応への看護 保育環境 沐浴・感染予防 栄養 《全身の観察・バイタルサインの測定、更衣・沐浴・臍処置、移動・移送》 〈調乳〉 〈身体測定〉 ①新生児期に起こりやすい医療事故 ・取り違え防止 ・新生児体動モニタ	講義 講義 講義 演習 講義	

	<p>4. 新生児にみられる異常と新生児の看護が理解できる。</p> <p>5. 事例を用いて産褥期・新生児期の看護が理解できる。</p>	<p>(1)新生児の異常と新生児の看護</p> <p>(1)アセスメントと看護</p>	<p>①分娩外傷 ②高ビリルビン血症 ③低出生体重児 ④新生児にみられる異常と看護</p> <p>①ヘルスプロモーション型看護診断 ②産褥期のアセスメントと看護 ③新生児期のアセスメントと看護</p>	<p>講義</p> <p>講義 演習</p>
テキスト	「系統看護学講座 母性看護学〔2〕母性看護学各論」医学書院			
成績評価の方法	筆記試験100%			

分野	専門分野	授業科目	精神看護学概論 I (精神看護の概念と健康支援)	担当 講 師	
開始 年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経 験	
授業の目的		精神看護の概念と現代社会の健康問題、健康支援について学ぶ。			
授業のキーワード		精神の健康 パーソナリティの発達 ストレス 危機 精神の健康問題 健康支援			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 精神看護の概念を理解できる。	(1) 精神看護の概念	①精神の健康とは ②精神障害のとらえ方 ③精神看護の対象 ④精神看護の役割 ・リエゾン看護	講義	
		(2) 精神の構造・機能とパーソナリティの発達	①フロイトの3層の人格構造 ②防衛機制 ③パーソナリティの発達理論 ・フロイトの性的発達理論 ・エリクソンの漸性的発達理論	講義	
		(3) ストレス	①ストレスとは ②ストレス反応の現れ方 ③ストレスコーピング	講義	
		(4) 危機	①危機とは ②危機モデル ・アギュララとメズニックのモデル ・フィンクのモデル ③危機介入 ・フィンクの危機モデルを活用した介入	講義	
	2. 現代社会における精神の健康問題、健康支援について理解できる。	(1) ライフサイクルにおける危機	①乳幼児における危機 ②学童期における危機 ③思春期・青年期における危機 ④壮年期・中年期における危機 ⑤老年期における危機	講義	
		(2) 精神の健康問題と健康支援	①精神の健康問題 ・自殺 ・ひきこもり ・不登校 ・自傷行為 ・薬物乱用 ・依存症 ・災害被害 ・犯罪被害 ・過労死 ・虐待、DV ②精神の健康支援	講義	
		テキスト	「ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本」 メディカ出版 「ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践」 メディカ出版 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会		
		成績評価の方法	筆記試験100%		

分野	専門分野	授業科目	精神看護学概論Ⅱ (精神保健福祉活動の動向)	担当講師	
開始年次	2年 前期	単位数 時間数	1 単位 1 5 時間	実務 経 験	
授業の目的		1. 精神医療の現状と精神保健医療福祉施策および倫理的課題について学ぶ。 2. 精神に障害のある対象の地域生活を支える精神保健医療福祉施策について学ぶ。			
授業のキーワード		精神保健医療の変遷 精神保健福祉法 心神喪失者等医療観察法 障害者総合医療法			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 精神保健医療福祉と法制度について理解できる。	(1) 精神保健医療福祉の変遷	① 精神病概念の定義 ② 精神病者の処遇の歴史 ③ 現行法にいたるまでの法律の変遷 ④ 社会的変遷と差別 ・社会的烙印 (スティグマ)	講義	
		(2) 精神保健医療福祉の法制度	① 精神保健福祉法 ② 心神喪失者等医療観察法 ③ 障害者総合支援法	講義	
		(3) 精神保健医療福祉施策の動向	① 我が国における精神保健医療福祉施策の現状 ② 今後の課題	講義	
		(4) 精神保健医療福祉領域における倫理的課題	① 看護の倫理とアドボカシー ② インフォームドコンセント ③ 精神に障害のある対象の権利擁護と自己決定	講義	
	2. 精神保健医療福祉活動とリハビリテーションについて理解できる。	(1) 精神科におけるリハビリテーションの考え方	① 全人的リハビリテーション ② 国際生活機能分類 (ICF) の考え方	講義	
		(2) 地域精神保健医療福祉活動における社会資源の活用	① 治療を継続するための場 ・病院、診療所 ・デイケア、ナイトケア ・訪問看護 ② 障害者総合支援法におけるサービス ③ 雇用および就労支援 ④ 家族や当事者によるサポート ・ピアサポート ⑤ 精神科チームによる連携 ⑥ 在宅医療との連携	講義	
テキスト	「ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本」 メディカ出版 「ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践」 メディカ出版 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会				
成績評価の方法	筆記試験 100%				

分野	専門分野	授業科目	精神看護学援助論 I (疾患の理解と看護の特徴)	担当 講師	
開始 年次	2年 前期	単位数 時間数	1 単位 30 時間	実務 経験	
授業の目的		1. 主な精神疾患、検査、治療について学ぶ。 2. 精神に障害のある対象の特徴を理解し、基本的な援助について学ぶ。			
授業のキーワード		精神疾患 精神症状 精神科治療 治療的関わり リスクマネジメント			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 精神症状のとりえ方 と主な疾患、検査、治 療について理解でき る。	(1) 精神医学の基礎的知識 (2) 精神症状とのとりえ方 (3) 主な精神疾患の理解 (4) 医学的検査と心理検査 (5) 主な精神科医療	①精神医学を学ぶ理由 ②精神医学の対象 ①感情の障害 ②知覚の障害 ③思考の障害 ④意欲の障害 ⑤記憶の障害 ⑥知能の障害 ⑦意識の障害 ⑧自我意識の障害 ①精神疾患の分類 ・国際疾病分類 (ICD分類法) ・DSM分類法 ②神経発達症 ・自閉症スペクトラム ・知的能力障害 ③統合失調症 ④抑うつ障害と双極性障害 ⑤不安障害 ⑥強迫性障害 ⑦ストレス関連障害 ⑧解離性障害 ⑨身体症状症および関連症 ⑩摂食障害 ⑪物質関連障害 ⑫パーソナリティ障害 ①医学的検査 ・脳検査 ②心理検査 ・知能検査 ・性格検査 ①薬物療法 ②精神療法 ・CBT ③社会療法 ・作業療法、SST ④電気けいれん療法	講義 講義 講義 講義 講義	

	<p>2. 精神に障害のある対象への看護の特徴と基本的援助について理解できる。</p>	<p>(1) 精神に障害のある対象の理解</p> <p>(2) 精神科看護におけるケアの方法</p> <p>(3) 環境の治療的意義とその活用</p> <p>(4) リスクマネジメント</p>	<p>① 精神に障害のある対象、家族の特性</p> <p>① 治療的関わりの考え方 ・ 看護師に求められるコミュニケーション技術</p> <p>② 日常生活行動の援助 ・ 入院患者の日常生活 ・ 治療としての生活援助</p> <p>③ 服薬治療に関わる援助</p> <p>① 病院・病棟の環境</p> <p>② 環境の治療的意義</p> <p>③ 環境の治療的活用</p> <p>① 自殺</p> <p>② 暴力行為 ・ 包括的暴力防止プログラム</p> <p>③ 無断離院</p> <p>④ 誤嚥・窒息</p> <p>⑤ 転倒・転落</p>	<p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p>
<p>テキスト</p>	<p>「ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本」 メディカ出版</p> <p>「ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践」 メディカ出版</p>			
<p>成績評価の方法</p>	<p>筆記試験 100%</p>			

分野	専門分野	授業科目	精神看護学援助論Ⅱ (疾病の経過に応じた看護)	担当講師	
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的	精神に障害のある対象の健康回復に向けた看護援助について学ぶ。				
授業のキーワード	経過別	安全確保	現実感の獲得	セルフケアの援助	社会復帰支援
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 精神に障害のある対象の疾病を経過と症状、治療をふまえた看護について理解できる。	(1) 急性期～回復期にある対象の看護	①本人および医療者の安全確保 ・行動制限、隔離、拘束 ②身体状態のアセスメント ③家族への援助 ④睡眠と休息の確保 ⑤現実感の獲得 ⑥治療への合意形成 ⑦再発防止のための心理教育	講義	
		(2) 慢性期にある対象の看護	①セルフケアの援助 ②社会復帰の向けての支援 ③長期入院患者の退院支援 ④地域における支援システムの活用 ⑤訪問・外来での看護の役割	講義	
		(3) 様々な精神症状を呈する対象の看護	①幻覚・妄想 ②意欲低下 ③不安 ④脅迫 ⑤希死念慮 ⑥躁、抑うつ ⑦依存 ⑧攻撃 ⑨操作等	講義	
		(4) 様々な治療を受ける対象の看護	①薬物療法 ②精神療法 (C B T) ③社会療法 (作業療法、S S T) ④電気けいれん療法 ⑤その他	講義	
	2. 主な精神疾患のある対象の看護について理解できる。	(1) 主な精神疾患の看護	①神経発達証の看護 ・自閉症スペクトラム ・知能能力障害 ②統合失調症の看護 ③抑うつ障害と双極性障害の看護 ④不安障害 (パニック障害) の看護 ⑤強迫性障害の看護 ⑥ストレス因関連障害 (P T S D) の看護 ⑦解離性障害の看護 ⑧身体症状症および関連症の看護 ⑨摂食障害の看護	講義	

		(2) 精神に障害のある対象の事例展開	⑩物質関連障害（アルコール、薬物）の看護 ・セルフヘルプグループの活動 ⑪パーソナリティ障害の看護 ①統合失調症の対象の事例展開	講義 演習
テキスト	「ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本」 メディカ出版 「ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践」 メディカ出版 「NANDA-I 看護診断 定義と分類 2021-2023」 医学書院			
成績評価の方法	筆記試験 100%			

分野	専門分野	授業科目	総合看護	担当講師	
開始年次	3年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的		1. チームの一員として看護を実践するための基盤を学ぶ。 2. 看護を実践し探求していくための基盤を学ぶ。			
授業のキーワード		看護管理	チーム医療	国際看護	看護研究
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 看護管理について理解する。	(1) 看護管理	①看護管理とは ②看護におけるマネジメント ③看護サービスのマネジメント ・看護の質の保障 ・人材のマネジメント ・物品・設備環境のマネジメント ・情報のマネジメント ・組織のリスクマネジメント ・看護サービスの評価	講義	
		(2) チーム医療	①看護職の責任と役割 ②多職種との連携・協働	講義	
		(3) 看護業務におけるチームワークとリーダーシップ	①組織とマネジメント ②リーダーシップ ③看護チームでの情報伝達・共有 ④看護師長の役割と業務 ⑤チームリーダーの役割と業務 ⑥チームメンバーの役割と業務	講義	
		(4) 看護職のキャリアマネジメント	①看護職のキャリア形成と成長	講義	
	2. 看護の動向と課題について理解できる。	(1) 看護の国際協力	①世界の健康問題の現状 ②国際協力の仕組み ③プライマリーヘルスケア ④異文化の理解	講義	
		(2) 日本での看護の課題と活動の方向性	①社会状況の変化と看護 ②看護活動に期待されるもの ③多職種との協働の中で看護の果たす役割 ④看護をめぐる倫理的ジレンマ	講義	

3. 看護研究の基礎が理解できる。	(1) 看護における研究の意味	①研究とは ②看護研究とは ③研究過程の外観	講義
	(2) 看護研究における倫理	①研究における倫理の必要性 ②研究と基本的人権 ③倫理上の原則 ④研究計画審査機構の設置	講義
	(3) 文献検討 (検索)	①文献検討 (検索) の意義 ②文献検索の資料と活用の仕方 ③文献の読み方 ④文献整理の方法	講義
	(4) 研究デザイン	①研究過程における研究デザインの位置づけ ②研究デザインの種類	講義
	(5) 論文のまとめ方	①研究計画書作成の目的と概要 ②研究計画書の作成 ③論文の作成 ④学会発表の意義	講義
テキスト	「系統看護学講座 看護研究」 医学書院 「系統看護学講座 看護の統合と実践〔1〕看護管理」 医学書院 「系統看護学講座 基礎看護学〔1〕看護学概論」 医学書院		
成績評価の方法	筆記試験100%		

分野	専門分野	授業科目	看護医療安全	担当講師	
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的	医療事故の現状をふまえ、リスクマネジメントの実際について学ぶ。				
授業のキーワード	医療事故 看護事故 リスクマネジメント ヒューマンエラー 事故の防止と方法				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 医療の現場におけるリスクマネジメントの基礎が理解できる。	(1) 医療安全を学ぶことの意味 (2) 医療事故防止の考え方と防止のためのシステム	①人間の特性とヒューマンエラー ②事故発生のメカニズム ①医療事故と看護業務 a) 看護業務から見る医療事故 b) 看護事故の構造 c) 看護事故防止の考え方 ②リスクマネジメントの考え方 ③医療事故の分析 a) インシデントレポートと分析 b) 事故分析の方法 ④組織としての医療安全対策 ・KYT (危険予知トレーニング) ⑤国内外の医療安全対策	講義 講義	
	2. 看護事故を自分自身に起こりうる身近な問題として捉え、その防止の方法について理解できる	(1) 看護業務に関連する事故と安全対策 (2) 医療従事者の安全と事故防止 (3) 事故防止の実際	①診療の補助業務に伴う事故防止 ・注射業務と事故防止 ・注射業務で用いる機器での事故防止 ・輸血業務と事故防止 ・内服与薬業務と事故防止 ・経管栄養注入と事故防止 ・チューブ管理と事故防止 ②療養上の世話における事故防止 ・転倒・転落事故防止 ・誤嚥事故防止 ・異食事故防止 ・入浴中の事故防止 ③事故防止のためのコミュニケーション ①感染 ②放射線被爆 ③医薬品の曝露 ④暴力 《看護事故に関するシミュレーション》	講義 講義 演習	
テキスト	「ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全」 メディカ出版				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門分野	授業科目	災害看護	担当講師	
開始年次	3年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的		災害が人々の生命や生活に及ぼす影響を理解し、災害時における看護の役割・機能と技術について学ぶ。			
授業のキーワード		災害サイクル 災害種類別の疾患の特徴 トリアージ 心のケア			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 災害および支援体制について理解できる。	(1) 災害とは	①災害・災害看護の定義 ②災害と災害看護の歴史 ③災害の種類と被害の特徴 ④災害サイクル ⑤災害がおよぼす影響	講義	
		(2) 災害発生時の社会の対応・しくみ	①災害に関連する国の政策、法律、制度 ②災害時の組織体制 ③災害時の情報収集と伝達 ④災害時の連携と協働、感染症対策 ⑤わが県の支援体制	講義	
	2. 災害時における看護の役割と機能について理解できる。	(1) 災害時の看護の役割と看護活動	①配慮を必要とする人への支援 ②被災者と支援者の心理の理解と援助 ③災害サイクルに準じた看護活動 静穏期・準備期、超急性期、急性期、亜急性期、復旧復興期 ④避難所、仮設住宅、復興住宅での看護	講義	
	3. 災害時に必要な看護技術を習得できる。	(1) 災害発生時の看護	①災害時必要な看護技術 《災害発生時指示に従った行動》 《トリアージ》 《小児の心肺蘇生》 《心肺蘇生（AEDを含む）》 《救急技術（止血法、包帯法）》	講義 演習	
テキスト	「ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践 ③ 災害看護」 メディカ出版				
成績評価の方法	筆記試験100%				

分野	専門分野	授業科目	臨床看護実践	担当講師	
開始年次	3年 前期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	
授業の目的		臨床判断のプロセスと業務遂行のためのマネジメントについて学ぶ。			
授業のキーワード		臨床判断 多重課題 時間管理 優先順位			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 臨床判断について理解できる。	(1) 臨床判断とは	①臨床判断と臨床推論 ②批判的思考と直感的思考 ③チャンク化とスキーマ帰納	講義	
		(2) 臨床判断モデル	①タナーの臨床判断モデル ②臨床判断のプロセス ・気づく ・解釈する ・反応する ・省察する <臨床判断シミュレーション>	講義 演習	
	2. 業務遂行のためのマネジメントについて理解できる。	(1) 1日の業務の組み立て	①複数対象者を受け持つための情報収集・管理 ②1日のスケジュールの立案と業務時間の管理 ・スケジュール管理の工夫 ・業務時間の管理 ・優先順位	講義	
		(2) 多重課題への対応	①多重課題とは ②多重課題が生じる要因と影響 ③多重課題への対応	講義	
		(3) 複数の対象者の状況に応じた看護師の行動計画の立案	①事例を用いた行動計画立案の実際	講義 演習	
		(4) 多重課題発生時の対応の実際	①多重課題時の援助の実際 <多重課題シミュレーション>	演習	
テキスト	「新体系 看護学全書 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント 医療安全」 メヂカルフレンド社				
成績評価の方法	課題 30% レポート 70%				

授業科目 基礎看護学実習 I (看護を知る実習)

時 期	1年 前期
単位 (時間)	1単位 (45時間)

目的： 様々な場における看護活動の実際を学ぶ。

学習活動	評価規準
1. オリエンテーション・見学を通して 看護師が活動する場について理解する。	1) 看護師が活動する様々な場について理解している。
2. 看護師と行動を共にし、看護活動 の実際を学ぶ。	1) 看護の対象は多職種により支えられていることを把握し、 チームの一員としての看護活動について理解している。 2) 対象の尊厳および権利を尊重し、その人らしく生活できる ように支援する看護師の活動について理解している。
3. 実習を通して看護師を目指すもの として考えを深める。	1) 看護活動における必要な能力について理解し、看護師を目 指すものとして考えを深めている。

授業科目 基礎看護学実習Ⅱ(入院生活をおくる対象の理解と日常生活援助)

時 期	1年 後期
単位 (時間)	2単位 (90時間)

目的： 入院生活をおくる対象を理解し、日常生活援助を通して看護を実践するための基礎的能力を養う。

学習活動	評価規準
1. 日々の関わりを通し、入院生活をおくる対象者を理解する。	1) 日々の関わりを通して、対象者の状態を身体面・心理面・社会面からとらえ、対象理解を深めている。
2. 対象者に必要な援助を考え、実践する。	1) 援助の計画を考え、安全で安楽な援助を行っている。 2) 実施した援助について振り返って意味づけし、より適切な援助となるよう探求している。
3. 看護者として、対象者を尊重して関わる。	1) 対象者を尊重して、関わりの場면을適切に振り返っている。
4. 看護チームの一員として、情報を共有する。	1) 看護チームの一員として、報告・連絡・相談している。

授業科目 基礎看護学実習Ⅲ(看護の展開)

時期	2年 前期
単位 (時間)	2単位 (90時間)

目的：健康障害をもつ対象の看護を実践するための基礎的能力を養う。

学習活動	評価規準
1. 日々の関わりを通し、健康障害をもつ対象者について理解する。	1) 対象者の身体面の状態がわかる。 2) 対象者とその家族の心理面・社会面の状態がわかる。 3) 対象者とその家族にとって解決すべき問題がわかる。
2. 健康障害をもつ対象者の状態に合わせた看護を実施する。	1) 対象者の状態に合わせた援助の計画を明らかにしている。 2) 援助の計画に基づいて、対象者の反応を確認しながら実施している。 3) 実施した看護について、事実を考察し、より対象者の状態にあわせた援助が導き出せている。
3. 対象者に関心を寄せ、尊重した態度で関わる。	1) 対象者に関心を寄せ、尊重した態度で、対象者の状況に合わせて関わっている。
4. 看護チームの一員として、情報を共有する。	1) 看護チームの一員として、報告・連絡・相談している。

授業科目 地域・在宅看護論実習Ⅰ（地域で生活する人々の健康支援）

時 期	2年 前期
単位（時間）	2単位（60時間）

目的：地域で生活する人々への健康支援を学ぶ。

学習活動	評価規準
1. 日々の関わりを通して、地域で生活する人々の健康を支える援助について理解する。	1) 地域で生活する人々について理解を深めている。 2) 地域で生活する人々の健康を支える場について理解を深めている。 3) 地域で生活する人々に応じた健康を支える援助について理解を深めている。 4) 対象の特徴に応じて関わり、関わりの場面を適切に振り返っている。
2. 実習を通して、地域で生活する人々への健康支援について理解する。	1) 地域で生活する人々への健康支援について考えを深めている。

授業科目 地域・在宅看護論実習Ⅱ（地域で生活・療養する人と家族の看護）

時 期	3年 前期・後期
単位 (時間)	2単位 (90時間)

目的：地域包括支援センターの活動や訪問看護の実際を理解し、地域で生活する人々の看護を実践するための基礎的能力を養う。

学習活動	評価規準
1. 地域包括支援センターでのオリエンテーションや見学をおし、地域で生活する人々の健康と暮らしを支える活動について理解する。	1) 市町村の特性をふまえ、地域で生活する人々の健康と暮らしを支える活動について理解している。
2. 日々の訪問看護をおし、在宅で療養する人と家族について理解を深める。	1) 在宅で療養する人と家族を生活者としてとらえ、理解を深めている。
3. 日々の訪問看護や多職種連携の実際を見学し、在宅療養を支えるサポートシステムや保健・医療・福祉の連携について理解を深める。	1) 在宅で療養する人と家族を支えるサポートシステムや保健・医療・福祉の連携について理解を深めている。
4. 日々の訪問看護をおし、在宅で療養する人と家族に必要な看護を考え、看護師と共に実施し、QOL の維持・向上に向けた看護がわかる。	1) 在宅で療養する人と家族に必要な看護について、「健康障害」・「療養環境」・「療養者と家族の思い」をふまえて考え、療養者や家族の反応にあわせて実施し、QOL の維持・向上に向けた看護がわかる。 2) 訪問の場に相応しい言動ができ、在宅で療養する人と家族の思いに配慮している。
5. 訪問看護ステーションの実習を通して、在宅で療養する人と家族を支える看護について理解を深めている。	1) 事実をふまえて、在宅で療養する人と家族を支える看護の役割について理解を深めている。

授業科目 成人・高齢者看護学実習Ⅰ（成人期・老年期の特徴と健康障害をふまえた看護）

時期	2年 後期
単位（時間）	2単位（90時間）

目的：成人期・老年期の特徴と健康障害をふまえ、看護を実践するための基礎的能力を養う。

学習活動	評価規準
1. 日々の関わりを通して、健康障害をもつ成人期・老年期の対象を理解する。	1) 成人期・老年期の特徴と健康障害をふまえ、対象理解を深めている。
2. 健康障害をもつ成人期・老年期の対象の看護を実践する。	1) 成人期・老年期の特徴と健康障害をふまえた計画を明らかにし、看護を実践している。 2) 実施した看護について、成人期・老年期の特徴と健康障害をふまえ、事実を考察し、対象者にあわせた援助を考えている。 3) 看護チームの一員として自覚を持ち、他者と情報共有している。
3. 実践を通して、成人期・老年期における看護について理解を深めている。	1) 健康障害をもつ成人期・老年期の対象への看護について理解を深めている。

授業科目 成人・高齢者看護学実習Ⅱ（状況の変化に合わせた看護）

時 期	3年 前期
単位（時間）	2単位（90時間）

目的：成人期・老年期の特徴と健康障害をふまえ、状況の変化に合わせた看護を実践するための基礎的能力を養う。

学習活動	評価規準
1. 日々の関わりを通して、健康障害をもつ成人期・老年期の対象を理解する。	1) 成人期・老年期の特徴と健康障害をふまえ、対象理解を深めている。
2. 健康障害をもつ成人期・老年期の対象者の状況の変化に合わせた看護を実践する。	1) 成人期・老年期の特徴と健康障害をふまえた計画を明らかにし、対象者の状況の変化に合わせた看護を実践している。 2) 実施した看護について、成人期・老年期の特徴と健康障害をふまえ、事実を考察し、対象者に合わせた援助を考えている。 3) 看護チームの一員として自覚を持ち、他者と協働している。
3. 実践を通して、成人期・老年期における看護について理解を深める。	1) 健康障害をもつ成人期・老年期の対象への看護について理解を深めている。

授業科目 小児看護学実習

時 期	3年 前期・後期
単位 (時間)	2単位 (90時間)

目的：子どもとその家族を理解し、小児看護を実践するための基礎的能力を養う。

学習活動	評価規準
1. オリエンテーションと見学を通し、地域で生活する障害のある子ども・家族の特徴と支援について理解する。	1) 障害のある子どもと家族の特徴と支援について理解している。
2. 日々の関わりを通して、子ども・家族について理解する。	1) 健康障害、成長・発達、子どもと家族の思いの視点から子どもと家族を理解している。
3. 日々の関わりを通して、子どもと家族に応じた看護について考え、実践する。	1) 子どもの健康障害や成長・発達に適したコミュニケーションがとれ、子どもと家族の思いや状況に合わせて関われる。 2) 子どもの健康障害、成長発達、子どもと家族の思いをふまえた援助を考え実施している。
4. 見学・体験・実践を通し、小児看護について理解する。	1) 見学・体験・実践した事柄を意味づけし、小児看護について理解している。

授業科目 ウィメンズヘルス看護実習

時 期	3年 前期・後期
単位 (時間)	2単位 (90時間)

目的： 周産期を中心とした、女性の健康を支える看護を実践するための基礎的能力を養う。

学習活動	評価規準
1. 日々の関わりを通し、健康状態および母児の相互関係をふまえ周産期にある対象を理解する。	1) 母児の健康状態および相互関係をふまえ、母児とその家族の理解を深めている。
2. 母児とその家族の状態・状況に応じた看護を考え実施できる。	1) 母児の経時的・経日的変化をふまえニーズに合った援助が行えている。 2) 母児の看護を振り返り、母児の健康維持・増進に必要な看護を探究している。
3. 実習を通して、命の大切さおよび女性の健康支援に必要な看護について理解を深める。	1) 女性の健康の維持・増進に関する支援について自己の考えを深められている。

授業科目 精神看護学実習

時 期	3年 前期・後期
単位 (時間)	2単位 (90時間)

目的： 精神に障害のある対象の特徴を理解し、看護を実践するための基礎的能力を養う。

学習活動	評価規準
1. 精神に障害のある対象の特徴をふまえた看護を実践する。	1) 対象者の様々な精神症状とニーズに合わせて、その人らしい生活を支援している。 2) 強みとなる健康的側面を捉えている。 3) 精神症状、身体症状からくる危険を回避し、対象の安全を守れている。
2. 日々の関わりを通して、関係性を発展させる。	1) 対象との関係の中で起こる様々は反応の意味を理解している。
3. 実践を通して、精神看護について理解する。	1) 入院環境の特殊性と精神看護における看護師の役割を理解している。
4. 社会復帰施設と病院での見学を通し、精神に障害のある対象が地域で生活するための支援について理解する。	1) 精神に障害のある対象が地域で生活するために必要な支援についてわかる。

授業科目 統合実習 I (臨床判断能力)

時期	3年 後期
単位 (時間)	2単位 (90時間)

目的： 対象の状態・状況に応じた臨床判断に基づく看護を実践するための基礎的能力を養う。

学習活動	評価規準
1. 健康障害をもつ対象の日々の状態や状況を把握する。	1) 対象者の状態を予想することで、優先される情報に着目し、対象の状態や状況を把握している。
2. 対象の情報を分析し対象者の状態・状況を解釈する。	1) 対象の情報について分析的推論・直観的推論・説話的推論をもちいて、対象者の状態や状況を解釈する。
3. 解釈に基づき、必要な看護を考え、状態・状況に合わせた看護を実践する。	1) 解釈に基づき、必要な看護を明らかにし、対象の反応をふまえて、状態・状況に合わせた看護を実践している。
4. 行った看護を省察し、次に必要な看護を明らかにする。	1) 対象の反応に基づく判断と行った看護について省察している。
5. 実習をとおり、臨床判断についての学びを明らかにする。	1) 自己の実践や看護師の思考・判断・行動をとおして臨床判断についての学びを明らかにしている。

授業科目 統合実習Ⅱ（看護の統合）

時 期	3年 後期
単位（時間）	2単位（90時間）

目的： チームの一員として協働し、臨床看護を実践するための能力を養う。

学習活動	評価規準
1. 組織の一員として見学・行動し、看護チームとして協働していることを理解する。	1) 病棟師長・リーダーの役割をふまえ、チームの一員として協働していることがわかる。 2) メンバー業務の実際と役割をふまえ、チームの一員として協働していることを理解する。
2. 複数の対象の状態・状況にあわせた看護を実践する。	1) 複数の対象に必要な看護を考え、状態・状況に合わせた看護を実践している。 2) 複数の対象の状態・状況をふまえ、優先順位を判断し、時間管理しながら行動している。

IX. 事例のマトリックス

IX. 事例のマトリックス

領域	基礎看護学	地域・在宅看護論	成人看護学	成人看護学
講義時期	1年次・後期	2年次・後期	2年次・前期	2年次・前期
発達段階・性	老年期・男性	老年期・女性	中年期・男性	中年期・女性
疾患	細菌性肺炎	脳梗塞後遺症	急性心筋梗塞	脳梗塞
疾病の経過	回復期	慢性期	急性期	回復期
症状	呼吸困難 分泌物増加 咳嗽	右片麻痺(不全麻痺) 運動障害 嚥下障害 言語障害	胸痛 脂質異常症	高血圧 脂質異常症 運動機能障害 感覚障害
治療・処置	薬物療法 安静療法	薬物療法 経管栄養(胃瘻)	経皮的冠状動脈インター ベーション 安静療法 薬物療法(内服・輸液)	理学療法 薬物療法(内服)

成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学
2年次・後期	2年次・後期	2年次・後期	2年次・後期	2年次・後期
中年期・男性	老年期・女性	幼児期・男児	壮年期・女性(初産婦)	壮年期・女性
糖尿病	大腿骨頸部骨折	気管支喘息	正常分娩	統合失調症
慢性期	急性期～回復期	急性期	産褥期・新生児期	慢性期
高血糖 脂質異常症 糖尿病神経障害	術後せん妄 脱臼	不機嫌 呼吸困難 咳嗽 喘鳴	産褥期 新生児期 <生理的变化> <生理的变化> 子宮底の変化 体重減少 悪露の変化 黄疸 乳汁分泌 心理的变化	意欲低下 関心の低下 幻覚(幻聴) 妄想 認知機能障害
食事療法 薬物療法(インスリン・内服) 運動療法 簡易血糖測定	手術療法 理学療法	薬物療法 (輸液・吸入・内服)		薬物療法(内服薬) 社会療法 精神療法

X. 看護技術の

マトリックス

X. 看護技術のマトリックス

項目	技術の種類	卒業時の到達度		領域	基礎分野		基礎看護学		地域・在宅看護論	
		演習	実習		専門	基礎分野				
1 環境調整技術	1 快適な療養環境の整備	I	I	基礎地・在			演習	環境整備	講義	
	2 臥床患者のリネン交換	I	II	基礎			演習	ベッドメーカーン 寝衣リネン交換		
2 食事の援助技術	3 食事介助(嚥下障害のある患者を除く)	I	I	基礎老年			演習	食事介助		
	4 食事指導	II	II	成人						
	5 経管栄養法による流動食の注入	I	II	地・在					演習	経管栄養法(経鼻・胃瘻)
	6 経鼻胃チューブの挿入	I	III	地・在			講義		演習	経管栄養法(経鼻)
3 排泄援助技術	7 排泄援助(床上、ポータブルトイレ、オムツ等)	I	II	基礎老年			演習	便・尿器の使い方 ポータブルトイレでの排泄介助		
	8 膀胱留置カテーテルの管理	I	III	基礎地・在			演習	膀胱留置カテーテルの管理	講義	
	9 導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入	II	III	基礎			演習	導尿		
	10 浣腸	I	III	基礎地・在			演習	浣腸		
	11 摘便	I	III	老年						
	12 ストーマ管理	II	III	地・在					演習	
4 活動・休息援助技術	13 車椅子での移送	I	I	基礎			演習	車椅子の移乗・移送		
	14 歩行・移動介助	I	I	基礎			演習	歩行・移動介助		
	15 移乗介助	I	II	基礎地・在			演習	車椅子・ストレッチャーの移乗	演習	福祉用具を使用した移乗
	16 体位変換・保持	I	I	基礎地・在			演習	体位変換	演習	福祉用具を使用した体位変換
	17 自動・他動運動の援助	I	II	基礎			演習	関節可動域の測定		
	18 ストレッチャー移送	I	II	基礎			演習	ストレッチャーの移送		
5 清潔・衣生活援助技術	19 足浴・手浴	I	I	基礎地・在			演習	手浴、足浴		
	20 整容	I	I	基礎			講義			
	21 点滴・ドレーン等を留置していない患者の寝衣交換	I	I	基礎			演習	寝衣交換		
	22 入浴・シャワー浴の介助	I	II	基礎地・在			講義		演習	在宅における入浴介助
	23 陰部の保清	I	II	基礎地・在			演習	陰部洗浄	演習	在宅における陰部洗浄
	24 清拭	I	II	基礎			演習	清拭		
	25 洗髪	I	II	基礎地・在			演習	洗髪	演習	在宅における洗髪
	26 口腔ケア	I	II	基礎地・在			演習	口腔ケア		
	27 点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換	I	II	成人						
28 新生児の沐浴・清拭	I	III	母性							
6 呼吸循環を整える技術	29 体温調整の援助	I	I	基礎			講義			
	30 酸素吸入療法の実施	I	II	基礎小児			演習	酸素吸入		
	31 ネブライザーを用いた気道内加湿	I	II	基礎小児			演習	吸入		
	32 口腔内・鼻腔内吸引	II	III	基礎			演習	口腔内・鼻腔内吸引		
	33 気管内吸引	II	III	基礎			演習	気管内吸引		
	34 体位ドレナージ	I	III	成人						
7 創傷管理技術	35 褥瘡予防ケア	II	II	基礎地・在			講義		演習	褥瘡予防
	36 創傷処置(創洗浄、創保護、包帯法)	II	II	基礎成人			演習	包帯法		
	37 ドレーン類の挿入部の処置	II	III	成人						

	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	看護の統合と実践	
1	1						
	2						
2	3		講義				
	4	講義					
	5						
	6						
3	7		演習 オムツ交換				
	8						
	9						
	10						
	11		演習 摘便				
	12						
4	13						
	14	講義	運動麻痺のある対象の移動				
	15	講義	運動麻痺のある対象の移乗				
	16						
	17						
	18						
5	19						
	20						
	21						
	22						
	23						
	24						
	25						
	26						
	27	演習	点滴を留置している患者の 寝衣交換				
	28				演習 沐浴		
6	29						
	30			講義			
	31			演習 吸入療法			
	32						
	33						
	34	演習	体位ドレナージ				
	35						
7	36	演習	創傷処置				
	37	講義					

項目	技術の種類	卒業時の到達度		領域	基礎分野 専門基礎分野	基礎看護学	地域・在宅看護論	
		演習	実習					
8	与薬の技術	38	経口薬(バツカル錠、内服薬、舌下錠)の投与	II	II	基礎 小児 精神	講義	
		39	経皮・外用薬の投与	I	II	基礎	講義	
		40	坐薬の投与	II	II	基礎	演習 直腸内与薬	
		41	皮下注射	II	III	基礎	演習 皮下注射	
		42	筋肉内注射	II	III	基礎	演習 筋肉注射	
		43	静脈路確保・点滴静脈内注射	II	III	基礎	演習 点滴静脈内注射	
		44	点滴静脈内注射の管理	II	II	基礎 小児	講義	
		45	薬剤等の管理(毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤、抗癌性腫瘍薬を含む)	II	III	基礎	講義	
		46	輸血の管理	II	III	基礎	講義	
9	救命救急処置技術	47	緊急時の応援要請	I	I	統合		
		48	一次救命処置(Basic Life Support: BLS)	I	I	統合		
		49	止血法の実施	I	III	統合		
10	症状・生体機能管理技術	50	バイタルサインの測定	I	I	基礎 小児 母性	演習 バイタルサインの測定	
		51	身体計測	I	I	基礎 小児 母性	講義	
		52	フィジカルアセスメント	I	II	基礎	演習 フィジカルイグザム	
		53	検体(尿、血液等)の取り扱い	I	II	基礎 小児	講義	
		54	簡易血糖測定	II	II	成人		
		55	静脈血採血	II	III	基礎	演習 静脈内採血	
		56	検査の介助	I	II	基礎 小児	講義	
11	感染予防技術	57	スタンダード・プリコーション(標準予防策)に基づく手洗い	I	I	基礎	演習 手洗い	
		58	必要な防護用具(手袋、ゴーグル、ガウン等)の選択・着脱	I	I	基礎	演習 手袋・エプロンの装着	
		59	使用した器具の感染防止の取り扱い	I	II	基礎	演習 (針を使う技術)	
		60	感染性廃棄物の取り扱い	I	II	基礎	演習 (針を使う技術)	
		61	無菌操作	I	II	基礎	演習 無菌操作	
		62	針刺し事故の防止・事故後の対応	I	II	基礎 統合	講義	
12	安全管理の技術	63	インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告	I	I	統合		
		64	患者の誤認防止策の実施	I	I	基礎 統合	講義	
		65	安全な療養環境の整備(転倒・転落・外傷予防)	I	II	基礎 小児 統合	演習 各基礎看護技術演習	
		66	放射線の被ばく防止策の実施	I	I	基礎 統合	講義	
		67	人体へのリスクの大きい薬剤のばく露 予防策の実施	II	III	基礎 統合	講義	
		68	医療機器(輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニター、酸素ボンベ、人工呼吸器等)の操作・管理	II	III	基礎	演習 医療機器の操作	
13	安楽確保の技術	69	安楽な体位の調整	I	II	基礎	演習 体位変換	
		70	安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア	I	II	基礎	演習 体位変換	
		71	精神的安寧を保つためのケア	I	II	基礎 精神	講義	

	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	看護の統合と実践
8	38		演習 与薬方法		講義	
	39					
	40					
	41					
	42					
	43					
	44		演習 輸液管理			
	45					
9	46					
	47					演習 災害発生時指示に従った行動
	48					演習 心肺蘇生・AED
10	49					演習 救急技術(止血法、包帯法)
	50		講義	演習 バイタルサイン測定(新生児)		
	51		講義	講義		
	52					
	53		講義			
	54	演習 簡易血糖測定				
	55					
11	56		演習 骨髄穿刺・腰椎穿刺			
	57					
	58					
	59					
	60					
	61					
12	62					講義
	63					講義
	64					講義
	65		講義			講義
	66					講義
	67					講義
	68					
13	69					
	70					
	71				講義	

※この表の「項目」は厚生労働省より通知された『看護師教育の技術項目と卒業時の到達度』で出された内容を明示している。

<p><演習></p> <p>I : モデル人形もしくは学生間で単独で実施できる</p> <p>II : モデル人形もしくは学生間で指導の下で実施できる</p>	<p><実習></p> <p>I : 単独で実施できる</p> <p>II : 指導の下で実施できる</p> <p>III : 実施が困難な場合は見学する</p>
--	---